

# 大阪市立自然史博物館館報

26

(平成12年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成14年3月31日発行



## 目 次

---

花と緑と自然の情報センター建設 .....	樽野博幸 .....	1
展 覧 事 業 .....		3
調 査 研 究 事 業 .....		8
資料収集保管事業 .....		16
普 及 教 育 事 業 .....		25
環瀬戸内地域（中国・四国地方） 自然史系博物館ネットワーク推進協議会事業 .....		34
庶 務 .....		36

---

# 花と緑と自然の情報センター建設

梅野博幸（大阪市立自然史博物館研究主幹）

大阪市立自然史博物館は、1974年4月に旧靱小学校の建物から長居公園内に移転オープンして、今年で27年目を迎えた。オープン当初は、自然史系のみの博物館としては、日本で最大規模であった。また、「人と自然」を基本テーマとし、全展示室をひとつのストーリーのもとに配置した展示は、当時としては先進的なものであり、市民からも、博物館関係者からも好評をもって迎えられた。

しかし、停滞は後退である。当初いくら先進的と思われた展示でも、年月とともに、その内容・手法が陳腐化することはさけられない。そして研究が進むにつれ、展示内容を改訂する必要性が生じるだけでなく、新たに展示したい項目が増えてくる。最初の展示更新は数年の準備の後、1985年度に実施され、翌86年4月にリニューアルオープンすることができた。しかしこの時の展示更新は、必ずしも満足のできるものではなかった。何よりも、展示室の床面積を増やすことができなかったため、特別展示室の一部を第4展示室として常設展示室に転用したり、入館者の休憩スペースを削って、展示ケースを新設しなければならなかった。

また、当分は余裕があると思われた収蔵庫も、まもなく窮屈になってきた。旧館時代の3倍のペースで収蔵資料が増えたのである。館員の収集努力だけでなく、多くの資料を収集していた研究者や市民からの寄贈が相次いだためであった。新しい建物が完成したことにより、安心して標本を任せられると評価されたのであろう。収蔵庫の増面積は急務であったが、増築はかなわず、天井裏を改造して第4収蔵庫を増設し、急場をしのぐにとどまっていた。

74年のオープン後10数年が経過すると、展示あるいは収蔵庫に関わる問題以外にも、入館者サービスの向上、研究設備の改善そして館蔵資料のデータベース化とその情報利用システムの構築など、多くの問題点が指摘されるようになった。そこで1989年には館内に「将来構想委員会」を組織し、問題点の整理を行い、自然史博物館のあるべき姿について、学芸課内部で一定のまとめを行った。

1990年度からは、入館者や研究者に対するアンケート調査を実施するとともに、専門業者に委託して、他館での事例調査を行い、現状分析と問題点を明確化し、解決策についての提案を得た。さらに1995から96年度には、外部委員を委嘱して、長居植物園と一体となった施設のあり方について検討していただき、答申を得た。

これら多くの場での調査・検討をもとに、当館では以下のような計画をまとめた。

- (1) 「地域自然誌展示室」の新設
- (2) 第二展示室の拡張
- (3) 特別展示室の更新
- (4) 上記と同時に、既存展示室の全面展示更新
- (5) 収蔵庫の拡張
- (6) その他

この計画は幸い財政当局の理解を得るところとなり、建物は1997年に基本設計ならびに実施設計が行われ、展示については、1996年に既存展示室展示更新の基本設計、1997年に同じく実施設計ならびに「地域自然誌展示室」の基本実施設計が行われた。しかし実行段階では、当面「地域自然誌展示室」の新設と特別展示室の更新ならびに収蔵庫の拡張その他の予算のみが認められ、第二展示室の拡張と既存展示室の全面展示更新は先送りとなった。増築の建物は建設局緑化推進本部が長居植物園内に計画していた施設との合築となり、「花と緑と自然の情報センター（以下、情報センター）」として、2001年4月にオープンした。

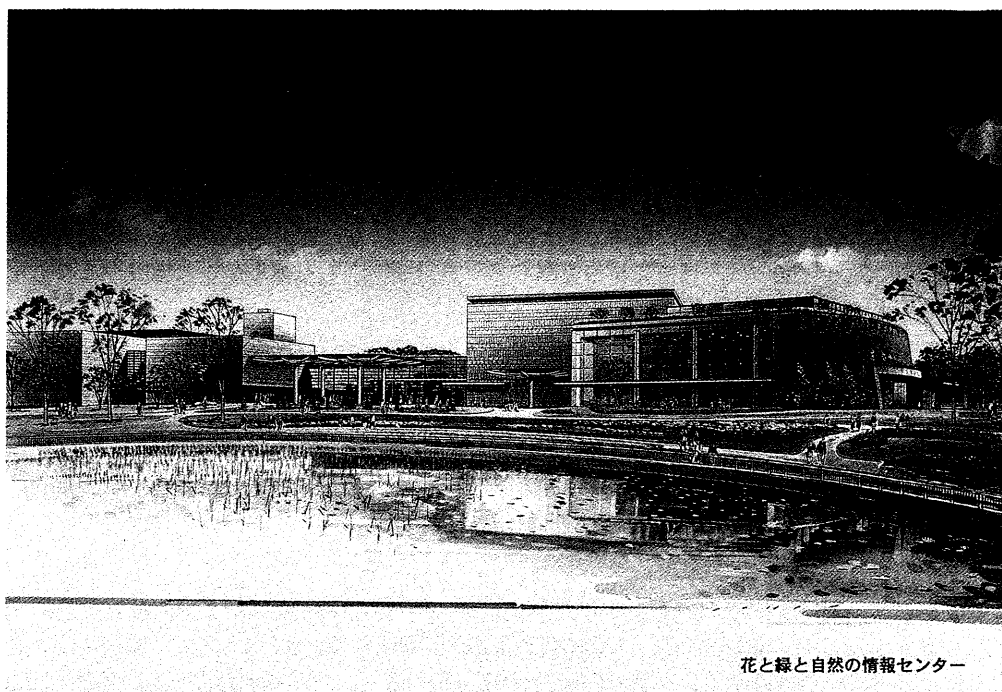
情報センターの中で当館の管理するスペースは、2階がネイチャーホール（新特別展示室）、1階がネイチャースクエア（地域自然誌展示室）、そして地下1階が収蔵庫および機械室となっている。

ネイチャーホールは面積約700㎡天井高7mの大きな空間であり、可動壁面を導入したこともあり、特別展開催の際にはこれまでより弾力的な部屋の使用が可能となった。今後は、常設展を補完し、博物館の活動の成果を市民に還元するために行ってきた、館主催の特別展だけでなく、より広い分野の自然史科学あるいは生命科学の研究成果を普及するために、当館以外の博物館が企画した展示を誘致することも可能となる。

1階のネイチャースクエアは、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、従来「普及センター」に開設されていた学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所にも設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

収蔵庫は、多くの制約があった中で、実質面積が現在の約3倍の3000㎡となった。

自然史博物館はこれまで、常に市民との接点を大切にしてきた。「情報センター」はそのひとつの到達点であろう。この施設の中味を、自然史博物館の活動全般を、市民とともにより一層充実させてゆかなければならない。



花と緑と自然の情報センター



# 展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的で身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、館の展示全体が、一つのストーリーによって、組み立てられている。

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、年1回開催している。そのテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもので、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

館外においては、市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。

## I. 常設展

入口のオリエンテーション・ホールでは、基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、を、象徴的に展示している。

第1展示室「大阪の自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。そして第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示し、その自然を、未来にも残さねばならないことを訴えて、締めくくりとしている。

2階ギャラリー（一部は1階のオリエンテーション・ホール）では、展示室の中で、十分に紹介しきれなかった、大阪の自然に関する資料の、分類展示を行っている。

本年度には、平成13年4月にオープンする花と緑と自然の情報センター内に新設される、「大阪の自然誌」展示室の展示製作を行った（巻頭言参照）。

## II. 特別展

### 第27回特別展「干潟の自然」

干潟とは、河口の内外や内湾の波静かな所に砂や泥が堆積して造られる平坦な地形で、潮の干満に伴い干出と水没を繰り返している所である。日本の変化に富んだ海岸地形の中で、干潟は、磯や砂浜と並ぶ渚の普遍的な構成要素として、古来より人々に親しまれてきた。

しかし、干潟の多くが人類の生活拠点でもある沖積平野のフロントに位置するために、干拓や埋立てなど、干潟に対する人為的改変がさまざまな形で続けられ、今では必ずしも身近な存在であるとは言えなくなってしまった。そして、干潟の消滅に対する危機感が強まる中で、「諫早」「藤前」「三番瀬」「吉野川」などが注視され、現在では干潟の改変と保全にかかわる問題が社会的な関心事のひとつとなっている。このような中で、干潟に関する正確な知識を市民の一人ひとりが身につけることは、とりわけ重要になっていると考えられる。

当館は、日本の各地の干潟において標本・写真などの資料収集を行なってきた。また、干潟に関わる底生動物、鳥類、魚類、植物ならびに堆積学、生態学の各分野を専門とする学芸員を擁している。このような収蔵資料と学芸員の力を結集することによって、市民が干潟について抱いているさまざまな学習要求や疑問に答えることができる、わかりやすく総合的な展覧会を企画した。

- 会 期 平成12年7月20日(木・祝)～9月24日(日)
- 会 場 大阪市立自然史博物館
- 主 催 大阪市教育委員会・大阪市立自然史博物館
- 後 援 朝日新聞社
- 観 覧 料 大人500円 高校生・大学生400円  
中学生以下無料 団体割引は通常通り

#### ● 展示内容

##### I. 干潟とは

1. 潮の満ち引き
2. 川がもたらすもの
3. 干潟を切る
4. 砂と泥
5. 干潟の自然地形
6. 干潟の3タイプ

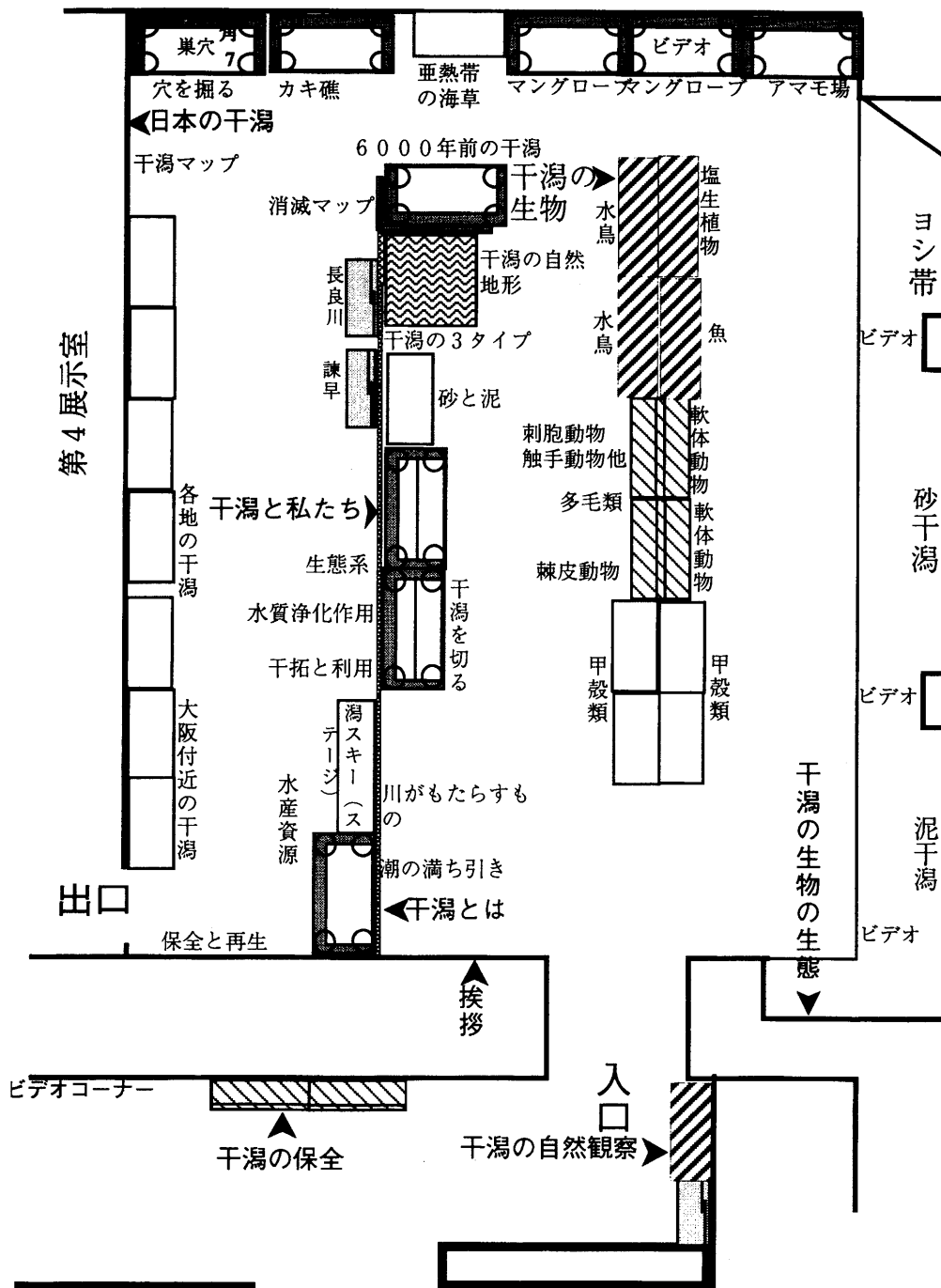
##### II. 干潟に生きる

1. 泥干潟
2. 砂干潟

図1. 2000年特別展 干潟 配置図

▲コーナータイトル位置

2000年7月20日



3. ヨシ帯
  4. アマモ場
  5. マングローブ干潟
  6. 亜熱帯の海草帯
- Ⅲ. 干潟の生物
1. 植物
  2. 魚
  3. 貝、エビ・カニ、ゴカイなど
  4. 鳥
- Ⅳ. 日本の干潟
1. 日本の干潟の生物相
  2. トビクラー干潟の生物分布
  3. 全国の干潟の現状
  4. 消滅した干潟
  5. 日本の主要な干潟
  6. 大阪付近の干潟
- Ⅴ. 干潟と私たち
1. 生態系としての干潟
  2. 水質浄化作用

3. 干拓と干潟の利用
4. 干潟の水産資源
5. 干潟の保全と再生のために
6. 干潟の自然観察
7. 干潟の保全活動

● 関連行事

(1) 自然史講座

「干潟の自然」

8月12日(土) 午後4時～4時30分

自然史博物館 集会室

山西 良平 学芸員(当館動物研究室)

(2) 普及講演会

「干潟のカニが織り成す社会行動の妙」

9月10日(日) 午後1時～4時

自然史博物館 講堂

和田 恵次氏(奈良女子大理学部教授)

干潟の自然の展示(図2～6)

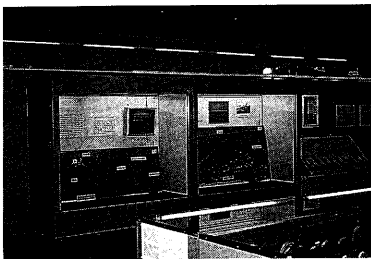


図2

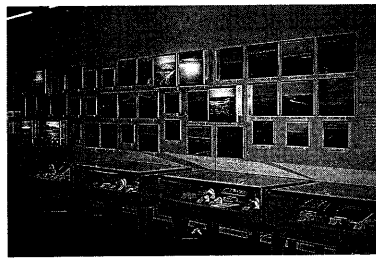


図3

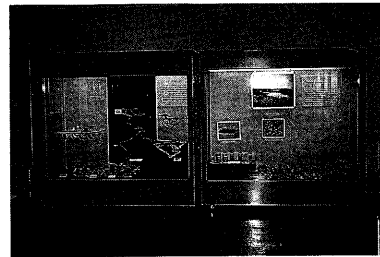


図4

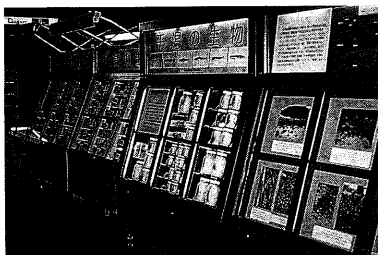


図5

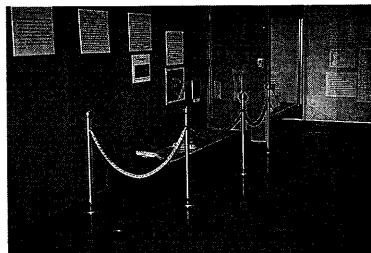


図6

### Ⅲ. 特別陳列

#### ■「新収資料展」

平成 11 年度にあらたに博物館資料に加わった標本の中から主なものを紹介した「新収資料展」を、11 年度末から引き続き開催した。

- 期 間：平成 12 年 3 月 1 日（水）～5 月 7 日（日）
- 場 所：特別展示室
- 主な展示物：

1. ドタブカの剥製標本 1 点

ドタバカ *Carcharhinus obscurus* は全世界の温帯から熱帯海域に分布するメジロザメ科の大型のサメであり、日本では千葉県や島根県以南の沿岸、外洋域に棲息している。人喰いザメと言われるが、実例はあまり報告されていない。今回展示した剥製標本は、明石海峡で操業していた小型底曳網漁船によって 1999 年 7 月 13 日に獲られた全長 3.25 m の雌の個体で、瀬戸内海では初記録のものである。

2. 自然史博物館地下の地層断面のはぎ取り標本 2 点

自然史博物館の西側に建設中の、「(仮称) 花と緑と自然の情報センター」の工事現場では、普段はなかなか見ることのできない、大阪平野地下の地層を観察することができた。これらの地層の断面を、樹脂を使ってはぎ取ったものを展示した。断面では、およそ 10 万年前の地震によってできたと考えられる地層の液化化跡なども観察された。

3. プテラノドンの全身骨格レプリカ 1 点

プテラノドンは中生代白亜紀に生息していた、空を飛ぶ爬虫類＝翼竜のなかまで、最大の種類では、翼を広げると幅 9 m 以上あった。いまのアホウドリのように海上を滑空し、魚を食べていたと考えられている。アメリカカンザス州で発掘されたもののレプリカを仮組立して展示した。

4. 古生代の植物化石 6 点

古生代デボン紀後期（約 3 億 7000 万年前）に前裸子植物から種子植物が由来したと考えられている。種子植物の起源となった前裸子植物のアルカエオプテリス（デボン紀）ならびに、デボン紀のシダ植物トクサ類のヒエニア、カラモフィトンなどを展示した。

5. ギンドワナ大陸の植物—グロッソプテリス— 4 点

オーストラリア、南アフリカ、インドの 3 地域から産出したグロッソプテリスを展示した。現在は離れた

地域の同じ時代の地層からグロッソプテリスが産出することは、古生代後期の南半球には、ギンドワナ大陸が広がっていた証拠の一つとされている。

6. 神戸層群から産出した植物化石

(大賀吉祐コレクション) 12 点

メタセコイア（小枝、球果、雄花）、オオミツバマツ（雄花）、オオガフタバマツ（球果）、モミマツ（球果）の化石を展示した。神戸市周辺に分布する神戸層群は植物化石を多産することで有名である。

7. 榎田恒一氏採集箕面産植物標本 3 点

榎田明子氏寄贈。1930 年に箕面で採集された合計 50 点の植物さく葉標本。学校の宿題として作成されたものだが、よい状態の植物をきちんと集め、丁寧に作っている点が評価される。また、70 年前の標本であるにもかかわらず、保存状態が良好。ごく普通の種類が収集されているが、当時の大阪の自然の実物記録として貴重なものである。

8. オーストラリア産植物標本（交換標本） 3 点

オーストラリアのアデレード植物標本庫との交換により収集した植物標本。重複標本の交換は、余剰にある標本を相手の標本庫で有効利用してもらえるだけでなく、自分の標本庫にない標本を相手から交換によって入手できる利点がある。

### Ⅳ. 館外での展示

#### ■「世界のカブトムシ展」

場 所：大阪市立淀川図書館

期 間：平成 12 年 8 月 1 日～30 日

展示物：ヘラクレスオオカブトムシ、ゾウカブトムシ、アトラスオオカブトムシほか、30 点

### Ⅴ. 展示関係の出版物・リーフレット・ビデオ

#### ■常設展解説書

- 第 13 集「ネイチャースクエア『大阪の自然誌』展示解説」

花と緑と自然の情報センター内に新設される「大阪の自然誌」展示室の解説。大阪各地の自然の特徴を地域別に解説している。情報センターは平成 13 年 4 月オープン。

一般市民向け、B5 縦版、本文 38 ページ、カラー図



版 6 ページ。平成 13 年 3 月発行，500 円。

■特別展解説書

● 第 27 回特別展「干潟の自然」 解説書

一般市民向け，B5 版縦版，本文 66 ページ，カラー

図版 6 ページ。平成 12 年 7 月 20 日発行，700 円。

■特別展関連ビデオ

●「干潟の生きものたち」

一般市民向け，VHS，38 分，平成 12 年 7 月発売，

2000 円。

## VI. 「自然史探検すくらっちクイズ」

自然史博物館は，大阪市内の他の社会教育施設と同様，平成 7 年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で，展示をよく見ることによって，学習効果をいっそう高めることをめざし，平成 8 年 7 月より「自然史探検すくらっちクイズ」を，実施している。問題のカードは 10 種類用意し各 5 問となっている。入館時，小中学生に各 1 枚手渡し，5 問中正解 4 問以上の場合には，絵はがきを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

# 調査研究事業

当館の四つの事業（展覧・調査研究・資料収集保管・普及教育）に、学芸課に所属する学芸員それぞれが、等しく取り組んでいる。これらの四事業を別々のものとしてではなく、互に関連したものにするためには、その根底に調査研究が位置づけられなければならない。本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるからである。

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 那須孝悌 (Takayoshi Nasu)

動物	山西良平 (Ryohei Yamanishi)	学芸課長代理
研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka Hatooka)	学芸員
	和田 岳 (Takeshi Wada)	学芸員

昆虫	金沢 至 (Itaru Kanazawa)	主任学芸員
研究室	初宿成彦 (Shigehiko Shiyake)	学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio Matsumoto)	学芸員

植物	岡本素治 (Motoharu Okamoto)	学芸課長
研究室	藤井伸二 (Shinji Fujii)	学芸員
	佐久間大輔 (Daisuke Sakuma)	学芸員

地史	樽野博幸 (Hiroyuki Taruno)	研究主幹
研究室	川端清司 (Kiyoshi Kawabata)	主任学芸員
	塚腰 実 (Minoru Tsukagoshi)	学芸員

第四紀	石井久夫 (Hisao Ishii)	主任学芸員
研究室	石井陽子 (Yoko Ishii)	学芸員
	中条武司 (Takeshi Nakajo)	学芸員

平成13年3月31日現在

## II. 個別調査研究

### ■那須孝悌（館長）

- (1) 長野県野尻湖周辺における後期更新世・完新世の古植生変遷に関する研究（野尻湖花粉グループの一員として）
- (2) 新潟県馬高遺跡周辺における縄文後晩期の古植生に関する研究

- (3) 静岡県天王山遺跡の植物遺体と花粉の研究

### ■山西良平（動物研究室）

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査

### ■波戸岡清峰（動物研究室）

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾、瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査

### ■和田 岳（動物研究室）

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査

### ■金沢 至（昆虫研究室）

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) アメンボの翅型と越冬の研究

### ■初宿成彦（昆虫研究室）

- (1) ハナノミ科甲虫類の分類学的研究
- (2) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体を含む）  
（長野県信濃町野尻湖、島根県三瓶埋没林、大阪市平野区・長原遺跡、五条市居伝遺跡）
- (3) クマゼミの生活史に関する調査
- (4) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査（テントウムシ科、ヒラズゲンセイ、ハムシ科ほか）

### ■松本吏樹郎（昆虫研究室）

- (1) 膜翅目ヒメバチ科の分類・寄生習性・系統学的研究
- (2) 近畿地方の膜翅目相の調査（有刺類を中心に）
- (3) 特定宿主における捕食寄生性昆虫の調査（チャミノガ、オオミノガ、テングチョウ、材穿孔性甲虫など）

### ■岡本素治（植物研究室）

- (1) ブナ科植物の分類学的研究
- (2) 種子散布生態学の研究
- (3) ヤブガラシの2倍体と3倍体の分布と生態

### ■藤井伸二（植物研究室）

- (1) コナラ属植物の繁殖生物学
- (2) 西スマトラ地域におけるブナ科植物の分類
- (3) 琵琶湖および周辺域のフロラと植物地理
- (4) 近畿地方における保護上重要な植物に関する研究  
（レッドデータブック近畿研究会の一員として）
- (5) シーボルト植物コレクションの調査

■佐久間大輔（植物研究室）

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
- (2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究
- (3) 二次林植物群集の研究
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制
- (5) 博物館情報システムの構築

■樽野博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
- (2) 長鼻類の足跡化石に関する研究
- (3) 大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
- (4) 備讃瀬戸海底産哺乳動物相に関する研究
- (5) 大阪市および周辺地域の遺跡発掘にともなう層序および脊椎動物遺体に関する研究

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 南アルプスの四万十帯・白亜系の構造発達史に関する研究
- (4) 現生放散虫に関する研究

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) 化石および現生球果の分類学的研究
- (3) ブナ属化石の分類学的研究

■石井久夫（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
- (2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究（野尻湖貝類グループの一員として）
- (3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の更新統・完新統の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) 長野県野尻湖周辺における上部更新統の層序に関する研究（野尻湖地質グループの一員として）

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) デルタ成および浅海成堆積物の堆積過程に関する研究
- (2) 陸域における堆積物重力流の分化過程に関する研究

- (3) 大規模噴火に伴う再堆積火山砕屑物に関する研究
- (4) 沿岸域の微地形発達と堆積作用に関する研究

### Ⅲ. 研究業績の公表

■当館より発行された刊行物

自然史研究 (Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History) 第2巻第17号. 2001年3月31日発行. 5ページ.

藤井伸二・黒崎史平：近畿地方の植物分布図文献一覧（第2報）. 257-261 (245-249と誤記). [No.370]

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study 誌は、ns. と略記した。同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は、表紙を記事の一部とみなしてページを付した。当館学芸員以外の著者には氏名に\*を付した。

【館長】

那須孝悌（2000.7）三瓶小豆原埋没林の意義について。島根県景観自然課三瓶埋没林調査報告書（平成10～11年度概報）: 14-15.

Nasu, Takayoshi (2000.8) The course of renovation project for The Bandung Geological Museum, and expectation to the museum. Abstracts of International Symposium on Geological Museum "Towards Ahead: Geological Museum in a Changing World": 3-5.

那須孝悌（2000.11）自然史博物館と友の会の更なる発展を。さつき（掘会）: 4-8.

【動物研究室】

山西良平（2000.7）カニの甲羅干し. ns.46 (7): 74.

山西良平（2000.7）四国吉野川感潮域の底生動物 一友の会観察会の記録一 (2). ns.46 (7): 75-76, 84.

山西良平（2001.3）自然海岸で遊ぼう. ユースネットワーク (319): 2.

波戸岡清峰（2000.12）日本産魚類検索 一全種の同定一（中坊徹次編）第2版, ウナギ目をはじめとする70科470種の検索および分類学的付記と文献. 東海大学出版会, 東京.

波戸岡清峰（2001.1）シンポジウム, マアナゴの資源生態と漁業. I. 資源生態, アナゴ科魚類の分類と分布. 日本水産学会誌 67 (1): 109-110.

和田 岳（2000.4）水の上のアオサギの巣. ns.46 (4): 37-



- 38.
- 和田 岳 (2000.6) 書評「エイリアン・スピーシーズ—在来生態系を脅かす移入種たち—」. 生物科学52(1): 49.
- 和田 岳 (2000.8) 東淀川区の淀川河川敷ヨシ原のツバメの集団ねぐら. 大阪の歴史と文化財 (6): 50-54.
- 和田 岳 (2000.9) 謎の鳥ヤマシギ. ns.46 (9): 97-98.
- 和田 岳 (2000.11) 嵐のスズメ大量死事件. ns.46 (11): 123-125.
- 和田 岳 (2001.1) 大阪のヘビ. ns.47 (1): 1-2.
- [昆虫研究室]**
- 金沢 至 (2000.6) 総論: 特集によせて —21 世紀のアサギマダラ調査を展望する—. 昆虫と自然 35 (6): 2-4.
- 金沢 至 (2000.6) 日本昆虫学会支部活動報告. 近畿支部. 昆虫ニューシリーズ, 3(2): 81-82.
- 金沢 至・山本博子\*・大阪の蛾を調べる会 (2000.4) 大阪府とその近接地域のスズメガ類の分布. *Insecta Miyatakeana*, 宮武頼夫さん退職記念論文集: 91-100.
- 藤井 恒\*・金沢 至編 (2000.10) アサギマダラ年鑑 1999. 日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト.
- 中谷憲一\*・金沢 至・山本博子\* (2000.9) アメンボの標識調査による越冬 2 型の推定. 日本昆虫学会第 60 回大会 (名古屋) 講演要旨: 28.
- 金沢 至 (2001.3) ヒメマイトトンボ —淀川に生き残る絶滅危惧種—. 自然と文化財⑥. 大阪の歴史と文化財 (7): 40-44. 大阪市文化財協会.
- 初宿成彦 (2000.4) 大阪のテントウムシミニガイドに掲載した種の最近の採集データについて. *Insecta Miyatakeana*, 宮武頼夫さん退職記念論文集: 125-129.
- 初宿成彦 (2000.4) 近畿地方のヒメハナノミ (予報) —付: 試作版オリジナル絵とき検索—. *Insecta Miyatakeana*, 宮武頼夫さん退職記念論文集: 130-136.
- 初宿成彦 (2000.5) 今月のむし. クマゼミ. 月刊むし (351): 1.
- 初宿成彦・宮武頼夫 (2000.6) クマゼミの成長の観察 (その 1). ns.46 (6): 63.
- 溝田浩二\*・初宿成彦・藤本克文\* (2000.7) 「兵隊虫」って何?—ツマグロカミキリモドキのすべて—. 日本鞘翅学会 (札幌) 講演要旨.
- 大畑純二\*・初宿成彦 (2001.7) 三瓶小豆原埋没林調査によって発見された昆虫遺体について. 三瓶埋没林調査報告書: 105-106. 島根県環境生活部景観自然課.
- 初宿成彦 (2000.8) II-3-5-3 昆虫類. 化石研究会 (編), 化石の研究法: 157-161. 共立出版. (分担執筆)
- 初宿成彦・桂孝次郎\*・奥野晴三\* (2000.8) 1999 年夏, セミが大発生! 靱公園セミのぬけがらしらべ'99の結果と 7 カ年のまとめ. ns.46 (8): 94-95.
- 初宿成彦 (2000.9) 甲虫の破片から過去をさぐる —日本における第四紀昆虫学の 20 年—. 昆虫と自然 35 (10): 39-42.
- 初宿成彦・桂孝次郎\*・宮武頼夫\* (2000.9) クマゼミの発生周期は何年か? 日本昆虫学会第 60 回大会 (名古屋) 講演要旨. 27.
- 初宿成彦 (2000.9) 総合学習に先手を打つ —大阪自然史での取り組み—. 日本昆虫学会第 60 回大会 (名古屋) 講演要旨. 118.
- 初宿成彦 (2000.12) 9 月例会報告. ねじればね, 日本甲虫学会.
- 初宿成彦 (2000.12) ジュニアのべえじ, テントウムシの冬ごし. 私たちの自然 (462): 14-15. (働)鳥類保護連盟.
- 初宿成彦 (2001.1) ヒラズゲンセイ, 神戸の繁華街にあらわる. ns.47 (1): 12.
- Shiyake, S (2000.12). Endangered Dytiscus from an archaeological site in Osaka City. *Quaternary Entomology Dispatch*.
- 初宿成彦・寺井 誠\*. 失われた自然の証人 —シャープゲンゴロウモドキの発見—. 葦火 (89): 8. 大阪市文化財協会.
- 松本吏樹郎 (2000.4) 大阪府とその周辺地域のスズメバチ, アシナガバチについて —博物館収蔵資料に基づく分布と概説—*Insecta Miyatakeana*, 宮武頼夫さん退職記念論文集: 195-200.
- 松本吏樹郎 (2000.4) 1999 年友の会会宿「西表島」の記録「—西表の昆虫—を振りかえって. ns.46 (4): 43-44.
- 松本吏樹郎 (2000.6) ヤマトコマチグモとヤマトツツベッコウ. ns.46 (6): 61-62.
- 松本吏樹郎 (2000.9) 日本産オナガバチ亜科 (*Rhyssinae*) の分類学的再検討 (Hym., Ichneumonidae: *Rhyssinae*). 日本昆虫学会第 61 回大会講演要旨: 66. (平成 11 年度追加)
- 初宿成彦 (2000.3) 第 1 節居伝遺跡出土の昆虫遺体について. 居伝遺跡—奈良県橿原考古学研究所調査報告第 79 冊: 130-133.
- [植物研究室]**
- 岡本素治 (2000.5) 蚊柱が動いた. ns.46 (5): 50.

岡本素治 (2000. 7) クマバチの生活史ノート 夏の交尾を中心にして. ns.46 (7): 77-80.

藤井伸二・栗林実 (2000. 7) 琵琶湖におけるヤナギトラノオの分布. 水草研究会会報 70: 17-19.

藤井伸二 (2000. 7) 大阪市立自然史博物館編「干潟の自然」(分担執筆)

藤井伸二 (2000. 7) 大阪市今川のオニバス群落. がしゅもく通信 2: 11-14.

富永明良・藤井伸二 (2000. 8) 近畿地方におけるミツバコンロンソウの分布. 植物分類地理 51: 121-122.

藤井伸二 (2000. 9) 私のフィールドノートから 30 タマミズキの豊凶 (前) — 結実個体数 —. ns.46 (9): 105.

藤井伸二 (2000. 10) 私のフィールドノートから 31 タマミズキの豊凶 (後) — 被食による豊凶の誇張? —. ns.46 (10): 119.

藤井伸二・黒崎史平\* (2001. 3) 近畿地方の植物分布図文献一覧 (第 2 報). 自然史研究 2 (17): 257-261 (245-249 と誤記)

佐久間大輔 (2000. 4) 1999 年度友の会合宿「西表島」の記録 ns. 4: 7-8

佐久間大輔 (2000. 5) 里山の自然. 世界通信教材科学ニュース No. 1668. 世界通信社.

佐久間大輔 (2000. 7) 大阪市立自然史博物館編「干潟の自然」(分担執筆)

佐久間大輔 (2000. 10) 里山のキノコ. 世界通信教材科学ニュース No. 1682. 世界通信社.

佐久間大輔 (2001. 2) 博物館の情報発信機能を強化するために — 環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワークの試み. 「博物館ホームページ推進研究フォーラム第 4 回研究集会レジメ集」

佐久間大輔 (2001. 3) 博物館の情報発信・集約機能を強化するために インターネット GIS の試み. 環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進協議会平成 13 年度事業報告書. 32-34

佐久間大輔 (2001. 3) 大阪市立自然史博物館編, ネイチャースクエア「大阪の自然誌」.(分担執筆)

#### ●新聞記事 (藤井伸二)

2000. 6. 1 朝日新聞 (朝刊) 疑問を解く ケナフ地球にやさしい? 功罪・賛否 不明点多く

2000. 7. 13 毎日新聞 (朝刊) 「温暖化救う」は早計? ケナフ 栽培ブームに学者ら警鐘

#### [地史研究室]

Kawamura, Y. & Taruno, H. (2000. 12): Immigration of mammals into Japan during the Quaternary, with comments on land or ice bridge formation enabled human Immigration. Acta Anthropologica Sinica, 19 (Supplement): 264-269.

樽野博幸 (2001. 3) 東海層群の哺乳類化石. 豊橋市自然史博研究報告 (11): 55-58.

川端清司 (2000. 6) 白亜紀末〜古第三紀の古日本列島域における海嶺沈み込みの放散虫年代. 第 7 回放散虫研究集会 (大阪微化石研究会第 90 回例会) 講演要旨集: 9.

川端清司 (2000. 7) 大阪市立自然史博物館の普及教育活動. 21 世紀の地学教育を考える大阪フォーラム大会要項, E-7.

Kawabata, K. and Kiminami, K. (2000. 9) Ridge collision and in situ greenstones in accretionary complexes: an example from the Late Cretaceous Ryukyu Islands arc and Southwest Japan margin. Ninth meeting, the International Association of Radiolarian Paleontologists, 40. (Abstract)

川端清司 (2000. 11) けとばせないふしぎな石ころ — サラシ首層 —. ns.46 (11): 121-122.

川端清司 (2001. 1) 生きている放散虫. ns.47 (1): 3-6, 12.

川端清司 (2001. 3) 恐竜化石胚胎層準における松尾層群の放散虫化石. 三重県大型化石発掘調査団 (編), 鳥羽の恐竜化石 — 三重県鳥羽市産恐竜化石調査研究報告書一, 三重県立博物館: 59-62.

塚腰 実 (2000. 7) 社会教育・生涯教育の現状と課題. 社会教育・生涯教育分科会の報告. 21 世紀の地学教育を考える大阪フォーラム大会要項: 20-23.

Tsukagoshi, M. (2000. 7) Plant fossils from the upper Cenozoic Tokai Group in Japan. The sixth conference of international organization of paleobotany, 132. (Abstract)

塚腰 実・那須孝悌 編著 (2000. 8) 大型植物化石. 化石の研究法: 91-124, 共立出版.

塚腰 実 (2000. 12) ニレ科植物の葉. ns.46 (12): 135-137.

塚腰 実 (2001. 3) ナンヨウスギの球果化石. ns.47 (3): 25-26.

塚腰 実 (2001. 3) 東海層群の大型植物化石. 豊橋市自

- 然史博研究報告 (11): 41-44.
- 塚腰 実・中条武司 (2001. 3) 対馬における植生調査と第四紀堆積物に関する地質調査. 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」—平成 12 年度成果報告—: 38-40.
- (平成 11 年度追加)
- 樽野博幸 (2000. 3) 備讃瀬戸産脊椎動物化石 —山本コレクション第 2 次調査報告 長鼻類ほか—, 備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石 —山本コレクション調査報告書—: 1-31.
- [第四紀研究室]
- 石井久夫 (2000. 7) 特集 自然を友に 自然・人間関係史. (社) 全国体育指導委員連合機関誌「みんなのスポーツ」22 (7): 8-10.
- 山西良平・石井久夫・有山啓之\* (2000. 7) 四国吉野川感潮域の底生動物 —友の会観察会の記録— (2). ns.46 (7): 75-76.
- 石井久夫 (2000. 7) 第 27 回特別展解説書「干潟の自然」(共同執筆).
- 石井久夫 (2000. 9) 干潟の巣穴. ns.46 (9): 99-101.
- 石井陽子・中条武司 (2000. 5) 長居地下での地層の全体像 —自然史博物館地下の地質 4—. ns.46 (5): 51-53.
- 石井陽子・中条武司・銭祥富・樽野博幸 (2000. 5) 大阪上町台地南部の上部更新統上町層. 地球科学 54(3): 147-148.
- 石井陽子 (2000. 10) 表紙とジュニア会員のページ「高温石英」. ns.46 (10): 109-110.
- 石井陽子・中条武司・樽野博幸 (2000. 9) 大阪平野上町台地南部の中上部更新統の層序と層相. 日本地質学会第 107 回大会講演要旨集 189.
- 中条武司・井上 基\*・前島 渉\* (2000. 7) デルタ堆積作用におけるストームの役割: 四国南西部中新統三崎層群の例. 堆積学研究会 2000 年春季研究集会 (東京) プログラム・講演要旨: 72-73.
- 片岡香子\*・中条武司 (2000. 7) 鮮新・更新統東海層群中の恵比寿峠—福田テフラ (嘉例川火山灰) における土石流—ハイパーコンセントレイティッド流堆積物の堆積過程. 堆積学研究会 2000 年春季研究集会 (東京) プログラム・講演要旨: 71.
- 中条武司 (2000. 7) 第 27 回特別展「干潟の自然」特別展解説書: 66 p. (共同執筆).
- 中条武司 (2000. 8) 表紙とジュニア会員のページ, 潮と波のハーモニー: 櫛田川干潟のおいたち. ns.46 (8): 85-86.
- 中条武司 (2000. 9) 三重県櫛田川河口干潟におけるバールの発達過程. 日本地質学会第 107 年学術大会 (島根) 講演要旨: 98.
- 片岡香子\*・中条武司 (2000. 9) 土石流—ハイパーコンセントレイティッド流堆積物の堆積過程 —前期更新世, 八千穂層群下部~中部八千穂累層の例—. 日本地質学会第 107 年学術大会 (島根) 講演要旨: 97.
- 前島 渉\*・木元高子\*・中条武司 (2000. 9) 新第三紀北但堆積盆におけるストーム流の特性と発生機構. 日本地質学会第 107 年学術大会 (島根) 講演要旨: 88.
- 中条武司・前島 渉\* (2000. 9) 中新統唐鐘累層. 日本地質学会第 107 年学術大会 (松江) 見学旅行案内書: 75-87.
- 片岡香子\*・中条武司 (2000. 12) 三重県北勢地域, 鮮新—更新統東海層群中の恵比須峠・福田テフラ (嘉例川火山灰) における土石流—ハイパーコンセントレイティッド流堆積物の堆積過程. 地質学雑誌 106 (12): 897-900.
- 中条武司 (2001. 2) 堆積学って何? 2. 堆積した場所を考える. ns.47 (2): 20-21.
- Maejima, W.\*, Nakanishi, T.\* and Nakajo, T. (2001. 3) Storm and recovery stage sedimentation records in the shoreline deposits of the Miocene Tōgane Formation, southwestern Japan. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 44: 163-172.
- 塚腰 実・中条武司 (2001. 3) 対馬における植生調査と第四紀堆積物に関する地質調査. 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」—平成 12 年度成果報告—: 38-40.
- 金 周龍\* (訳: 石井陽子・中条武司) (2001. 3) Quaternary Geology of Korea, with special reference to Upper Pleistocene and Holocene alluvial geoarchaeological sites (韓国の第四紀地質, 上部更新統・完新統の沖積層の地質・考古遺跡について). 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」—平成 12 年度成果報告—: 53-55.



#### IV. 文部省科学研究費補助金を受けて行った研究

##### 1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

###### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
四万十帯における海嶺沈み込みと白亜紀末～古第三紀テクトニクスに関する研究 (課題番号 11640459)	川端清司

○北海道東部の根室層群の放散虫化石の抽出・分析を行った(継続中)。

○9月14日から24日アメリカ合衆国カリフォルニア州ブレスデン市において開催された第9回国際放散虫会議においてそれまでに得られた成果を「Ridge collision and in situ greenstones in accretionary complexes: An example from the Late Cretaceous Ryukyu Islands and south-west Japan margin.」として発表し、関係分野の研究者と議論を行った。

○化石放散虫の研究との比較研究のために、現生放散虫の分布・季節変動を調べるために、紀伊水道において、プランクトンネットによる放散虫試料のサンプリングを行った。

###### ■奨励研究 (A)

研究課題	研究代表者
低湿地性植物の繁殖特性と遺伝的変異に基づいた保全指針の検討(2年間継続の初年度) (課題番号 40228945)	藤井伸二

○初年度は、琵琶湖岸の野外調査を中心に行った。

○遺伝的変異解析のための材料採取を行った。

研究課題	研究代表者
肉眼で認識できない広域火山灰の検出による大阪層群の時間軸設定 (課題番号 12740287)	石井陽子

○大阪平野で採取されたボーリング試料について、火山灰分析を行って肉眼で認識できない火山灰を検出し、中・上部更新統の火山灰層序を検討した。宮崎県南部～熊本県南部、千葉県中部において比較試料を採取し

た(継続中)。

##### 2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

###### ■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
20年間における熱帯雨林の林分動態と気候変動に対する反応(3年間継続の初年度) (課題番号 12575006)	米田 健	藤井伸二

○初年度は、11月5日～12月5日の31日間、インドネシア共和国に出張した。

○スマトラ島において、熱帯降雨林の動態調査を行った。

○ブナ科植物の分類学的再検討のための資料収集を行った。

○アングラス大学理学部主催の公開セミナーにおいて講演を行った。講演タイトルは「西スマトラにおけるブナ科植物の多様性」。

#### V. 財団等の助成金を受けて行った研究

##### ■全国労働共済生活協同組合連合会の助成を受けて行った研究

研究課題	研究代表者
近畿地方の絶滅危惧植物に関する情報収集と保全に関する知識の普及 (昨年度より継続, 10月終了) 藤井伸二(レッドデータブック近畿研究会)	

○ニュースレター(がしゃもく通信2号)の発行

○レッドリスト種のランク評価

○近畿地方のレッドリスト種に関する情報収集

#### VI. 海外出張・派遣

##### ■科研費(基盤研究C)による出張

氏名: 川端清司

出張先: アメリカ合衆国

目的: 第9回国際放散虫会議に参加し、研究成果を発表した。前項(IV)参照。

##### ■科研費(基盤研究B)による出張

## 調査研究事業

氏名：藤井伸二

出張先：インドネシア共和国

目的：「20 年間に於ける熱帯雨林の林分動態と気候変動に対する反応」の調査「基盤研究（B）」を参照。

### ■国際協力事業団（JICA）による派遣

目的及び内容：バンドン地質博物館リニューアルオープン祝賀式典参列および記念国際シンポジウム基調報告

出張者：那須孝悌

出張先：インドネシア共和国

期間：平成 12 年 8 月 20 日～9 月 2 日

他の参加者：亀井節夫（京都大学理学部名誉教授）、富田克敏（近畿大学）、豊 遙秋（通産省地質調査所地質標本館）

新規・継続の別及び実績：平成 6（1994）年から継続

経費：全額国際協力事業団（JICA）経費

## VII. インターネットによる研究環境の支援

博物館では平成 9 年度からインターネット利用システムを導入し、市民への情報発信とともに研究活動に利用している。利用の形態は主にホームページの閲覧による研究情報の収集、メーリングリストを含む電子メールの利用、FTP による外部資料の利用などである。また、今年度、「環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク」の事業として標本データベースを活用した GIS サービスを整備した（34 ページ環瀬戸内の項参照）

## VIII. 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」

大阪市教育委員会が各博物館施設に所属する学芸員等の人的資源の相乗効果と活性化を図り、さらに研究成果を市民還元することを目的として実施する共同研究。今年度より 3 カ年の計画で、当館をはじめ大阪市立博物館、大阪市立美術館、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市文化財協会、（仮称）大阪市立近代美術館準備室などが参加して開始された。

課題として本市に関わりの深い朝鮮半島との自然・文化の交流を中心とした「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」を選定し、当館では、サブテーマの内「旧石器時代における自然環境の変動と人類の技術の移動に関する研究」、「朝鮮半島と日本列島における農耕の比較検討

—自然環境との関連において—」を中心に担当する。

平成 12 年度はこれらに関連して、韓国人研究者による成果および国内の既存研究の動向を総括するために、2 件のシンポジウムを、当館講堂において開催した。シンポジウム終了後は招聘した韓国人研究者と共に共同研究の打ち合わせを行うと共に、大阪市内の遺跡や周辺の自然環境等を見学、討論を行った。また国内調査を行った。

### 第 1 回「朝鮮半島と日本列島の自然環境～歴史のゆりかごとして～」

日 時：2000 年 9 月 3 日（日）午後 1 時～4 時 30 分

プログラム：

「韓国の森林と日本の森林」

金 聖徳氏（大韓民国忠南大学校生物学科教授）

「韓国の第四紀地質」

金 周龍氏（大韓民国資源研究所責任研究員）

「朝鮮半島の初期農耕と自然環境」

後藤 直氏（東京大学文学部教授・考古学）

総合討論

司会 那須孝悌氏（大阪市立自然史博物館館長）

主 催：大阪市学芸員等共同研究実行委員会

参加者：135 名

### 第 2 回「～新発掘資料と自然環境からさぐる～朝鮮半島と日本列島の初期農耕」

日 時：2001 年 2 月 18 日（日）10 時 30 分～16 時 30 分

プログラム：

「植生からみた韓国と日本の農耕」

佐久間大輔氏（大阪市立自然史博物館学芸員）

「韓国と日本の初期稲作」

安 承模氏（大韓民国円光大学校教授）

「韓国における農耕遺跡調査・研究の現況」

李 相吉氏（大韓民国慶南大学校専任講師）

「農耕環境の昆虫遺体」

初宿成彦氏（大阪市立自然史博物館学芸員）

「韓国と九州における農耕技術比較研究の課題」

大庭重信氏・寺井 誠氏

（財大阪市文化財協会調査員）

総合討論

司会 工楽善通氏

（財ユネスコ・アジア文化センター

文化遺産保護協力事務所部長）

参加者 220 名

---

国内調査

初宿成彦・佐久間大輔 11月8日～10日 福岡県北九州市  
周辺

塚腰 実・中条武司 11月6日～8日 長崎県対馬

なお、平成12年度の研究成果及び第1回シンポジウムの概要は大阪市学芸員等共同研究実行委員会より、成果報告書として刊行されている。第2回以降のシンポジウムについても各年次で刊行される予定である（刊行物の問い合わせ先：佐久間学芸員）。



# 資料収集保管事業

## I. 主な購入標本

### ■昆虫研究室

世界の甲虫類 22,477 点

### ■地史研究室

中・古生代植物化石 30点

世界の鉱物（坂本コレクション） 500点

スペイン産黄鉄鉱 1点

## II. 寄贈および交換標本

### ■動物研究室

愛媛県産アカメ 1点 水野 晃秀氏

鹿児島県志布志産コクテンアオハタ 1点 加治 俊二氏

淀川産サツキマス 1点 山下 隆司氏

大阪府他産両生・爬虫類 8点 浦野 信孝氏

大阪周辺のカエル1 2点 楠井 陽子氏

大阪周辺のカエル2 3点 楠井 晴雄氏

関西産両生・爬虫類 5点 河上 康子氏

豊能町他産両生・爬虫類 3点

奥田 幸男氏・柳澤 香里氏

京都府大江町産両生・爬虫類 3点 奥田悠太氏他

泉佐野市産イモリ 1点

松尾 淳一氏・松尾 照子氏

堺市産ヒバカリ 1点 佃 十純氏

枚方市産アオダイショウ 1点 西畑 敬一氏

沖縄本島産シロアゴガエル 1点 山本 博子氏

京都府精華町産シマヘビ 1点 西畑 敬一氏

揖保川（中川）産アシハラガニ・ウネナシトマガイ 2点

河上 康子氏

貝塚市蕎原産タゴガエル 1点 西村 静代氏

交野市産ツバメ 1点 堀 和明氏

堺市産オオルリ 1点 増田 静子氏

奈良県大和郡山市産ヒヨドリ 1点 楠井 陽子氏

岸和田市産ツグミ 1点 西村 静代氏

堺市産スズメ 2点 弘岡 拓人氏

滋賀県産カワラヒワ 1点 初宿ゆき子氏

高槻市産イワツバメ 1点 浦野 信孝氏

東大阪市産メジロ 1点 岸本 洋子氏

箕面市産ムクドリ 1点 和田あづみ氏

オホーツク海産エトピリカ 1点 望月 博一氏

天王寺動物園 73点

柏原市産クサガメ 1点 河上 康子氏

三重県伊賀町産カエル 13点 野尻湖友の会

奈良県産カエル 3点 井上 龍一氏

徳島県剣山産サンショウウオ類 5点 河上 康子氏

長野県飯田市産カエル 2点 河上 康子氏

京都府大江町産両生・爬虫類 3点

友の会合宿「大江山」参加者

台湾産カエル 4点 冨永 修氏

石垣島産イワサキワモンベニヘビ 1点 太田 英利氏

加古川河口産甲殻類・軟体動物他 59点 山下 隆司氏

タヌキカイチュウ 4点 浦野 信孝氏

吹田市産イタチ 1点 寺西 眞氏

有田川産タビラクチ他 2点 野元 彰人氏

紀ノ川産チワラスボ 1点 山田 浩二氏

和歌山県白浜産ミツクリザメ 1点 池田 博美氏

東大阪市産スズメ 1点 岸本 光樹氏

大阪市都島区産オオヨシキリ 1点 中谷 憲一氏

貝塚市産ホオジロ 1点 白木江都子氏

兵庫県西宮市産キビタキ 1点 丸橋 寿夫氏

大阪市中央区産キビタキ 1点 吉田 咲子氏

河内長野市産イタチ 1点 林 潤一氏

兵庫県産鳥類他 11点 和木 純子氏

兵庫県芦屋市産トラグミ 1点 薬師寺宣安氏

堺市産タヌキ他 2点 浦野 信孝氏

大阪市西区産シロハラ 1点 近藤 義之氏

大阪市鶴見区産メジロ 1点 田中 文雄氏

岡山県産カヤクグリ他 5点 堺 昭生氏

和歌山県産タヌキ 1点 大島新一郎氏

兵庫県西宮市産メボソムシクイ 1点 田中 貞之氏

大阪市北区産キビタキ 1点 竹中美佐子氏

大阪市生野区産キジバト 1点 奥田 幸男氏

大阪市西区産ムギマキ 1点 近藤 義之氏

兵庫県西宮市産シロハラ 1点 田中 貞之氏

大阪府産両生・爬虫類 7点 浦野 信孝氏

兵庫県他産両生・爬虫類 5点 河上 康子氏

金剛山産タゴガエル 1点 楠井 晴雄氏

台湾産ヤモリ 1点 小山 良氏

河内長野市産ヤマカガシ他 2点 田中久美子氏

和歌山県産ジムグリ 1点 橋田 俊彦氏

屋久島産カエル類 3点 浦野 信孝氏

屋久島産ニューギニアウナギ 8点 望月 典隆氏

和歌山県南部産セグロウミヘビ 1点 池田 博美氏

能勢町産ドンコ	1点	浦野 信孝氏	日本, スマトラ他昆虫類	106点	市川 顕彦氏
徳島県産ダイナンギンボ	1点	小西 英人氏	日本産昆虫類	32点	市川 顕彦氏
大阪市西区産シロハラ	1点	近藤 義之氏	ヨーロッパ産キリギリス類	22点	Fer Willemse氏
西表島産クイナ類	2点	河合 正憲氏	北海道産ドウナンヒラタクチキウマ副模式標本		
大阪市鶴見区産キジバト	1点	中谷 憲一氏		2点	石川 均氏
大阪市生野区産ヒヨドリ	1点	奥田 幸男氏	日本産イナゴ類など	63点	市川 顕彦氏
吹田市産ハイタカ	1点	平 軍二氏	日本産双翅目昆虫	1点	春沢圭太郎氏
兵庫県千種川産ヒナユキスズメ	1点	木邑 聡美氏	日本産昆虫	218点	春沢圭太郎氏
堺市産ゴイサギ・タヌキ他	1点	浦野 信孝氏	東南アジア産コガネムシ	6点	春沢圭太郎氏
大阪市平野区産トラツグミ	1点	田代 貢氏	大阪府産昆虫	117点	大宮 文彦氏
大阪湾産海岸動物	22点	有山 啓之氏	日本産ミズアブ科	94点	市川 顕彦氏
貝塚市産モグラ他	3点	白木江都子氏	マレーシア産膜翅目昆虫	36点	春沢圭太郎氏
シンジュウミナナフシ (等脚類)			インドネシア産膜翅目・双翅目昆虫		
副模式標本他	13点	布村 昇氏		23点	大内和太郎氏
<i>Ceratocephale wakasaensis</i>			日本産膜翅目昆虫	25点	富永 修氏
副模式標本他	4点	林 勇夫氏	日本産ムシヒキアブ	49点	富永 修氏
高槻市産ナニワクチミゾガイ	3点	松村 勲氏	日本産昆虫	157点	河上 康子氏
奄美大島産カニ類他	592点	野元 彰人氏他	日本産双翅目・膜翅目昆虫類	6,126点	木村 輝雄氏
小豆島近海産ミナマイケカツオ	1点	横川 浩治氏	海外産双翅目・膜翅目昆虫類	224点	木村 輝雄氏
宇和海産魚類	60点	水野 晃秀氏	奄美大島産サソリモドキ	1点	桂孝 次郎氏
和歌山県産ワカウラツボ	10点	野元 彰人氏	台湾産昆虫	142点	桂孝 次郎氏
河内長野市産ヤマドリ	1点	森山 春樹氏	日本産昆虫	222点	藤井 伸二氏
吹田市産シロハラ	1点	ト部 弘信氏	長野県美ヶ原産蛾類	31点	永瀬 幸一氏
枚方市産ハイタカ	1点	山本 悟夫氏	北海道・京都府産昆虫	7点	田端 修氏
■昆虫研究室			日本産直翅類など	26点	市川 顕彦氏
欧州・日本産直翅型昆虫など	114点	市川 顕彦氏	松井通外国産昆虫コレクション1,144点		宇山 喜士氏
日本産昆虫とマレーシア産ハゴロモ			■植物研究室		
	52点	春沢圭太郎氏	寄贈および交換(*)標本, レッドデータブック近畿研究会が行っている「近畿地方の保護上重要な植物(1995)」の改訂編集作業に関連して, 近畿地方産絶滅危惧植物の標本寄贈がとくに顕著であった。		
松井通日本産蝶コレクション	2594点	宇山 喜士氏			
イワツバメシラミバエ	4点	以倉 健次氏			
日本産膜翅目・双翅目昆虫	69点	河上 康子氏			
日本産ヒメバチ	59点	吉田 浩史氏			
九州産ササキリモドキ類の模式標本など					
	17点	田畑 郁夫氏	豊岡市産ヒシ	1点	竹田 正義氏
関西地方のナナフシ類・バッタ類など			阪南市・揖保川産植物	2点	山西 良平氏
	26点	河合 正人氏	京都市産アゼオトギリ	1点	上田 俊穂氏
日本産膜翅目昆虫	127点	春沢圭太郎氏	淀川産ヤナギヌカボ	2点	北川ちえこ氏
オサムシダマシ属の一種	2点	伊丹市昆虫館	奈良県産水生植物	6点	富永 明良氏
インドネシア産ミツバチ巣	1点	大内和太郎氏	河内長野市産ヒメタヌキモ	6点	佐久間大輔氏
日本産オオキノコムシ科模式標本	6点	生川 展行氏	兵庫県産ヒメミソハギ	1点	菅村定昌・河上康子氏
九州産ササキリモドキ類タイプシリーズ					
	12点	田畑 郁夫氏	大阪府・奈良県産植物	6点	田中 光彦氏
			三重県産ナガボテンツキ他	2点	栗林 実氏

# 資料収集保管事業

池田市産 Bidens	1 点	植村 修二氏	兵庫県産植物	8 点	山崎 俊哉氏
日本産植物	6 点	谷口 丈夫氏	大阪府産植物	74 点	平野 弘二氏
兵庫県産オオアカウキクサ	1 点	近藤 浩文氏	日本産植物	80 点	梅原 徹氏
春日山産アカガシ	1 点	藤井 俊夫氏	日本産植物	80 点	梅原 徹氏
奈良県産水生植物	5 点	富永 明良氏	日本産植物 *	300 点	
大阪府産植物	6 点	田中 光彦氏			大本花明山植物園
滋賀県産ハイハマボス	3 点	森 小夜子氏	日本産植物 *	300 点	頌栄短期大学
枚方市産オオバノトンボソウ	1 点	橋本 利清氏	日本産植物 *	300 点	
高槻市産 Lamium	1 点	石井 淳氏			都立大学牧野標本館
堺市産ニオイスマレ	1 点	樽野 博幸氏	日本産植物	80 点	梅原 徹氏
大阪府産水生植物	4 点	柴田 利彦氏	日本産植物	80 点	梅原 徹氏
大阪府産ムラサキミミカグサ	1 点	西田 浩志氏	静岡県他産海藻	61 点	澤田 威氏
貝塚市産シロバナハンショウヅル	1 点	中村 進氏	河内長野市産菌類・変形菌標本	250 点	田中久美子氏
淡路島産カワラサイコ	1 点	松本吏樹郎氏	京都府美山町産菌類標本	150 点	熊谷 了氏
滋賀県産ヒナノシャクジョウ	1 点	浜田 拓氏	日本産菌類標本	250 点	関西菌類談話会
金剛山産植物	1 点	楠井 陽子氏	■地史研究室		
兵庫県産水生植物	2 点	竹田 正義氏	岐阜県土岐砂礫層産壺石、珪化木	5 点	永田 五一氏
長野県産ドクゼリ	1 点	初宿 成彦氏	中国遼西産魚化石	1 点	曹 振印氏
青森県産水生植物	27 点	浜端 悦治氏	高知県産ウーライト石灰岩他	2 点	阪野 広二氏
奈良県産コンロンソウ	1 点	以倉 健次氏	中央公会堂地下産ウマ下顎骨	1 点	豊田 幸一氏
長野県産ミヤマハタザオ他	4 点	栗林 実氏	奈良県川上村産チャート他	3 点	北中 秀司氏
枚方市産植物	2 点	橋本 利清氏	貝塚市産和泉層群脊椎動物化石	1 点	山本 浩久氏
鳥取県産ミヤマハタザオ	1 点	清水健太郎氏	■第四紀研究室		
福岡県産ハマハタザオ	1 点	岡田美恵子氏	中国産巻貝化石（オルドビス紀？）	2 点	高木紀代子氏
金剛山産植物	6 点	楠井 陽子氏	大阪市内ボーリング資料	43 件	都市整備局
沖縄県産ハマジンチョウ	1 点	波戸岡清峰氏		33 件	水道局
茨木市産アスナロ	1 点	萩原 寛氏			
大阪府産植物	38 点	平野 弘二氏			
北米産植物	5 点	川端 清司氏			
友ヶ島産植物	43 点	迫田 昌弘氏			
和歌山県産ケンボナシ	2 点	山本 修平氏			
阪南市産 Potamogeton	2 点	山本 博子氏			
兵庫県産水生植物	11 点	竹田 正義氏			
和歌山県産開花タケ類	5 点	村瀬ますみ氏			
大阪府産帰化植物	3 点	西尾フミ子氏			
金剛山産植物	1 点	楠井 陽子氏			
近畿地方産キイムヨウラン他	2 点	(株)ウェスコ			
兵庫県産他植物	67 点	小林 禎樹氏			
日本産スゲ属植物	32 点	織田 二郎氏			
日本産植物	54 点	迫田 昌弘氏			
和泉市産植物	128 点	清水 千尋氏			
近畿地方産植物	3 点	丸井 英幹氏			

## Ⅲ. 館員による資料収集

### ■動物研究室

担当学芸員は山西…Y, 波戸岡…Hと略記する.

三重県松阪市櫛田川河口干潟の底生動物を採集

(6 月, Y, H)

兵庫県南淡町沼島で海岸動物を採集

(8 月, Y, H)

兵庫県御津町新舞子, 姫路市白浜の干潟で底生動物を採集

(8 月, Y)

兵庫県加古川河口干潟で底生動物を採集

(9 月, Y)

兵庫県千種川河口で干潟の底生動物を採集

(10 月, Y, H)

香川県丸亀市沖で底生魚類を採集

(2 月, H)

## ■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員（金沢-K、初宿-S、松本-M と略記）が行った出張は次の通りである。便宜上、調査研究や資料収集のためばかりでなく、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

3月28～31日	台湾陽明山	アサギマダラ (K)
4月9日	茨木市泉原	昆虫全般 (S)
4月15～16日	京都府大江山	昆虫全般 (S)
4月22日	滋賀県今津町	昆虫全般 (S)
4月23日	奈良県御所市	昆虫全般 (M)
5月13～14日	京都府大江山	昆虫全般 (S, M)
5月18日	河内長野市	昆虫全般 (M)
5月21日	茨木市泉原	昆虫全般 (S)
5月22日	和泉葛城山	昆虫全般 (M)
5月22日	高槻市原	セミの幼虫 (S)
5月25日	和泉葛城山	昆虫全般 (M)
5月26日・6月4日	能勢町妙見山	昆虫全般 (K)
5月29日	岬町	膜翅目 (M)
6月5日	河内長野市河合寺	昆虫全般 (S)
6月5日	犬鳴溪谷	昆虫全般 (M)
6月6日	ボンボン山	昆虫全般 (M)
6月8, 21, 25日	兵庫県猪名川町・大阪府能勢町三草山	昆虫全般 (K)
6月10日	箕面市	昆虫全般 (M)
6月11日	滋賀県比良山琵琶湖バレイ	アサギマダラ (K)
6月15日	茨木市泉原	昆虫全般 (S)
6月15日	岬町	膜翅目 (M)
6月16日	四条畷市室池	昆虫全般 (M)
6月20日	四条畷市くろんど池	昆虫全般 (S)
6月22日	河内長野市加賀田	テントウムシ (S)
6月26日	泉佐野市	昆虫全般 (M)
7月2日	茨木市泉原	昆虫全般 (S)
7月4日	神戸市	ヒラズゲンセイ調査 (S)
7月4日	八尾市十三峠	昆虫全般 (M)
7月10日	大阪狭山市・陶器山	昆虫全般 (S)
7月12日	八尾市十三峠	昆虫全般 (M)
7月15～16日	奈良県和佐又山	昆虫全般 (S)
7月18日	岬町平井峠	膜翅目 (M)

7月22～26日	北海道札幌市・旭川市・上富良野町	昆虫全般 (S)
8月2日	京都府美山町芦生	昆虫全般 (S)
8月17～20日	長野県北信地方、新潟県上越地方	昆虫全般 (S)
8月20日	千早赤阪村金剛山	昆虫全般 (K)
8月22～24日	愛媛県面河村	昆虫全般 (M)
8月28日	京都府美山町芦生	甲虫類 (S)
9月3日	大阪市西区靱公園	セミの抜け殻 (S)
9月10日	東大阪市枚岡公園	セミの抜け殻 (S)
9月20日	京都府八幡市	テントウムシ (S)
9月21日	豊能町妙見山	甲虫類 (S)
9月28日・10月9日	枚方市渚	バッタ (K)
10月5日	能勢町三草山、千早赤阪村小吹台	写真 (K)
10月4・8日	河内長野市河合寺	昆虫全般 (S)
10月5日	茨木市茨木丘陵	昆虫全般 (S)
10月5日	四条畷市室池	昆虫全般 (M)
10月11日	茨木市泉原	昆虫全般 (S)
10月12日	大阪狭山市陶器山	昆虫全般 (S)
10月13日	槇尾山	昆虫全般 (M)
10月25日	羽曳野市石川	昆虫全般 (M)
11月22日	千早赤阪村小吹台	写真 (K)
11月23日	東大阪市生駒山	写真 (K)
12月1日	羽曳野市石川	昆虫全般 (M)
12月4～7日	台湾南雅山・金華山・陽明山	アサギマダラ (K)
12月18・20日	千早赤阪村金剛山	昆虫全般 (K)
1月6日	高槻市上牧	昆虫全般 (M)
1月27日	兵庫県猪名川町・能勢町三草山	ミドリシジミ類 (K)

## ■植物研究室

調査研究なども含めた資料収集の内、以下に主なものを記す。本年度は、地域自然誌展示室準備のための資料収集と科研費関連の調査が顕著であった。担当学芸員は、藤井…F、佐久間…Sと略記する。

4月7日・12日・6月22日・8月31日	京田辺市	(S)
4月11日	高槻市鶴殿	(F)
4月12日・5月24日・6月6日・7月10日・12日・21日・8月3日・23日・30日・9月21日・29日	琵琶湖安曇川デルタ	(F)

# 資料収集保管事業

4月16日・27日・9月17日 大和川	(F)	4月4日	岡山県高梁市, 成羽町 成羽層群植物化石	
4月18日・6月26日 信太山	(F)			(TK)
4月18日・8月11日・18日 大和葛城山	(F)	4月10日	岐阜県土岐市 東海層群産植物化石	(TK)
4月19日 岬町机立山	(F)	5月18日	和歌山県御坊市 現生堆積物断面	(T)
4月28日 伏見桃山	(F)	6月3日	京都市大文字山 岩石	(T)
5月1日 生駒山	(F)	6月23, 25日	大阪府能勢町三草山 岩石	(K)
5月18日・6月5日・10月4日・8日 河内長野市	(S)	7月6日	高槻市 丹波層群石灰岩・岩石	(K)
5月21日・9月6日・26日 淀川西中島	(F)	8月4-11日	中国吉林省, 遼寧省	
5月21日・26日・6月3日・10月11日・17日			中生代・新生代植物化石	(TK)
城北わんど	(F)	8月11-13日	京都府大江町 岩石	(K)
5月25日 和泉葛城山	(F)	8月14・15日	和歌山県由良町沖 現生放散虫	(K)
6月4日・10月13日 櫛田川	(F)	9月7日	奈良市春日山 岩石	(T)
6月10日 箕面	(S)	9月14-16日	アメリカ合衆国オレゴン州	
6月15日 茨木市泉原	(S)		中生代放散虫化石分析試料	(K)
6月16日・10月5日 四条畷市室池	(F)	9月24・25日	アメリカ合衆国カリフォルニア州	
6月20日 交野市	(S)		中生代放散虫化石分析試料	(K)
6月24日 島本町水無瀬	(S)	11月6-10日	長崎県対馬	
6月30日 堺市金岡町	(F)		対州層群植物化石, 現生植物標本	(TK, N)
6月24日 樽井	(S)	11月12日	泉佐野市 和泉層群化石	(TK, N, T, K)
7月3日・8月7日 三田市	(F)	11月23日	泉南市, 阪南市 和泉層群岩石	(TK, N)
7月27日・8月24日 京都市吉田山	(S)	11月27日	貝塚市 大阪層群火山灰層	(TK, T, N)
8月17日・10月12日 陶器山	(S)	3月19・20日	三重県南勢町, 長島町	
8月31日 由良川	(F)		中生代放散虫化石分析試料	(K)
9月4日～7日 日光・中禅寺湖	(S)	<b>■第四紀研究室</b>		
9月24日 生駒山辻子谷	(S)	担当学芸員名は石井久夫…IH, 石井陽子…IY, 中条武司…Nと略記する。		
9月27日 河内長野市河合寺	(F)	4月6日	櫛田川干潟 はぎ取り標本	(N)
9月27日 貝塚市水間	(S)	4月18日	和歌川 はぎ取り標本	(N)
9月28日 木津川祝園	(F)	4月20日	福岡県和白干潟 現生貝類	(IH)
10月4日 金剛山	(F)	4月20日	日高川 はぎ取り標本	(N)
10月18日・26日・12月13日・16日 岩湧山	(F)	4月21日	福岡県椎田町 第四紀貝類化石	(IH)
10月18日 信太山聖神社	(S)	5月4日	福島県相馬市松川浦 現生貝類	(IH)
10月21日 蒜山	(F)	5月12日	吹田市千里北公園周辺	
11月5日 河内長野市石仏	(S)		大阪層群火山灰試料	(IY)
11月5日～12月5日 スマトラ島	(F)	5月17日	和歌川 はぎ取り標本	
12月12日 岬町	(F)		(N, IY, IH, 樽野, 和田)	
1月22日 高台寺	(S)	5月18日	日高川 はぎ取り標本	(N, IY, 樽野)
3月29～31日 天草	(F)	6月2-5日	櫛田川現生貝類, 甲殻類巣穴レプリカ	
<b>■地史研究室</b>			(IH, N, 波戸岡, 山西, 藤井)	
担当者名 樽野…T, 川端…K, 塚腰…TK, 中条武司		6月3・4日	櫛田川干潟 はぎ取り標本2点	(N, IH)
(N)と略記する。		6月17-20日	山口県, 熊本県羊角湾	

	甲殻類巣穴レプリカ、現生貝類	(IH)	軟体動物	24,133 点
6月22日	石川 河床の礫	(N)	棘皮動物	2,154 点
7月2日	高砂市加古川河口 現生貝類	(IH)	原索動物	430 点
8月1～2日	山口県周防灘沿岸		その他無脊椎動物	750 点
	甲殻類巣穴レプリカ	(IH)	魚類	15,781 点
8月14～16日	宮崎県南部～熊本県南部		両生類	20,212 点
	火山灰試料	(IY)	爬虫類	4,255 点
8月28日	姫路市白浜 現生貝類	(IH)	鳥類・哺乳類	3,525 点
9月25日	高砂市加古川河口 現生貝類	(IH)		
10月13日	大阪市中央公会堂工事現場		(計)	87,644 点
	難波累層貝化石	(IY, N)		
10月21～23日	赤穂市千種川河口等 現生貝類	(IH)		
10月25日	石川 河川堆積物			
	はぎ取りおよび河床の礫	(N,IY)		
11月27日	貝塚市 大阪層群火山灰層			
		(N, 樽野, 塚腰)		
2月2日	宇治川 現生貝類	(IH)		
2月9日	淀川 現生貝類	(IH)		
3月10～12日	千葉県中部 上総層群の火山灰試料	(IY)		

## ■昆虫研究室（未登録標本を含む）

標本総計 599,668 点（平成 12 年度末の標本数）

（日本産 456,273 点、外国産 143,395 点）

日本産昆虫	平成 12 年度末
Plecoptera カワゲラ	432
Ephemeroptera カゲロウ目	130
Odonata トンボ目	17,607
Mantodea カマキリ目	324
Orthoptera 直翅目	9,784
Phasmida ナナフシ目	429
Dermoptera ハサミムシ目	426
Grylloblattodea ガロアムシ目	21
Blattodea ゴキブリ目	415
Isoptera シロアリ目	86
Embiopoda シロアリモドキ目	25
Psocoptera チャタテムシ目	335
Thysanoptera アザミウマ目	24
Heteroptera 異翅類（カメムシなど）	25,739
Homoptera 同翅類（セミなど）	13,324
Neuroptera 脈翅目	1,418
Mecoptera シリアゲムシ目	1,642
Trichoptera トビケラ目	2,130
Heterocera 蛾（ガ）	30,288
Rhopalocera 蝶（チョウ）	38,041
Coleoptera 甲虫目	235,805
Diptera ハエ目	23,064
Hymenoptera ハチ目	38,506
その他（各目）	16,278
(計)	456,273

## IV. 業務委託による収集

業務名：大阪湾ベントス採集・検定業務

採集水域：大阪湾内 17 地点

採集方法：スミスマッキンタイア型採泥器を使用し、1 地点当たり 3 回採泥する。船上で、各々の試料について、0.5 mm 目の篩を用いて泥を洗い流し、篩上に残ったベントスをホルマリン固定し、持ち帰る。持ち帰ったベントス試料を選別・同定し、種ごとに計数する。

採集時期：平成 13 年 2 月 1 日から同年 2 月 28 日までの期間。

## V. 現有資料数

## ■動物研究室（平成 12 年度末）

海綿動物	113 点
刺胞動物・有櫛動物	656 点
扁形・紐形動物	286 点
触手動物	135 点
環形動物	5,131 点
甲殻類	10,083 点



## 資料収集保管事業

外国産昆虫	平成 12 年度末	古生代無脊椎動物化石	1,370
蝶（チョウ）	44,222	中生代無脊椎動物化石	1,665
蛾（ガ）	4,231	*第三紀無脊椎動物化石	1,017
膜翅目（ハチ）	4,711	有孔虫等微化石プレパラート	17,841
双翅目（ハエ）	706	放散虫化石	135
甲虫	51,494	脊椎動物化石	1,452
脈翅目（ウスバカゲロウなど）	44	古生代植物化石	100
同翅類（セミなど）	5,761	中生代植物化石	310
異翅類（カメムシなど）	1,255	第三紀植物化石	1,791
直翅型昆虫	1,789	古生代脊椎動物化石	25
トンボ	1,240	中生代脊椎動物化石	70
カワゲラ	66	第三紀脊椎動物化石	299
その他（各目）	3,088	第四紀脊椎動物化石	1,119
南太平洋学術調査コレクション	4,700	（計）	30,709
田中竜三氏コレクション			
（日本産含む）	12,439	■第四紀研究室（登録済標本数）平成 12 年度末	
韓国産昆虫コレクション			
（西川・桂・富永氏）	1,506	人類遺物	29 点
アフガニスタンの昆虫		植物化石	17,770 点
（有田 豊氏他）	6,143	現生花粉プレパラート	2,114 点
（計）	143,395	現生花粉	941（種）
		現生シダ植物胞子	362（種）
		無脊椎動物化石	3,564 点
		大阪市内ボーリング資料	990（件）
		（計）	25,772 点（件・種）
■植物研究室（平成 12 年度末、未登録標本を含む）			
種子・シダ植物サク葉標本	197,586		
藓類標本	34,730		
苔類標本	23,000		
地衣類標本	353		
海藻標本	12,708		
菌類標本	2,300		
木材標本	1,772		
木材プレパラート	1,283		
果実標本	6,071		
（計）	279,803		
■地史研究室（登録済標本数）平成 12 年度末			
岩石	1,249		
鉱物	2,266		

## VI. 収蔵資料目録の発行

### ■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 33 集

竹之内孝一編集

吉良哲明氏蒐集による日本及びその周辺の高産貝類

—腹足類—

原色貝類図鑑（保育社）の著者である吉良哲明氏（故人）が蒐集し、当館が保管している貝類コレクションのうち腹足類（巻貝）2,559 種を収録。リストには上位分類群名、和名、学名、産地、標本登録番号を記載。学名（属のみ）、和名の索引あり。全 110 ページ。販価 1,100 円。2001 年 3 月 31 日発行。

## VII. 自然史図書の収集

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人・団体・自治体等からの各種報告書等の寄贈や、購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は主として普及センターに配置され、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問に使用されている。専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。また、コピーサービスについても行っていない。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成12年度（2000年度）も、新しく受け入れたものについて引き続きおこない、国内の刊行物については過去に遡及して入力を始めている。

平成12年度中に、データ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、4,785部で、平成12年度末現在の入力済み収蔵数は、6,265部である。交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成12年度に3,683冊、平成12年度末現在の累計128,203冊である。

### 1. 個人・機関からの受贈（交換分は除く、敬称略、登録順）

- 個人（順不同、故人を含む）：小郷一三、谷角素彦、田辺和祐、富永 修、福岡幸一、引田 茂（109）、石原宣夫、河上康子、川那部浩哉、井上 清、西山保典、宮武頼夫、小林桂助、森岡秀人、織田銑一、（逐次刊行物）黒田隆司、鉄川 精（Freshwater Biology, Ecology, Ecological Applications, Ecology of Freshwater Fish）、市川顕彦、および館員（波戸岡清峰、初宿成彦、那須孝悌、金沢 至、佐久間大輔）
- 民間団体、出版社、企業など：青少年科学系博物館・早稲田大学ネットワーク推進協議会、浅間火山博物館、栃木県昆虫愛好会、日本応用動物昆虫学会、東京農業大学農業資料室、偕成社（小田英智、北添伸夫）、小学館、（株）環境調査研究所、（株）道出版、自然科学観察研究会、瀬戸内海環境保全協会、科学系博物館活用電子情報通信学会&中央大学ネットワーク推進協議

会、世界文化社、日本生命財団、讀賣新聞編集局、（逐次刊行物）大阪昆虫同好会、姫路自然史研究会、第四紀総合研究会、日本爬虫両棲類学会、（株）近代建築社、学習研究社、構造地質研究会（バックナンバー多数）、野生生物保全論研究会

- 政府機関及び自治体など：第23回全国育樹祭大阪府実行委員会（大阪府環境農林水産部）、福井県県民生活部自然保護課、（財）日本科学技術振興財団、科学技術庁、（財）大阪市天王寺動物園協会、国立科学博物館教育部、（財）科学技術広報財団、宇宙開発事業団、綾瀬市市史編集係、島根県景観自然課、（財）日本宇宙少年団編集室、厳原町教育委員会

### 2. 購入等によるもの

#### ● 図書購入費による購入

平成12年度	99冊	806,576円
--------	-----	----------

#### ● 消耗品費による購入

国内雑誌	科学など 9誌	150,180円
------	---------	----------

外国雑誌	Copeia など 8誌	214,263円
------	--------------	----------

[平成12年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、生物科学、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、岩鉱。

外国：Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

#### ● 学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会（日本応用動物昆虫学会誌、Applied Entomology and Zoology）

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生態学会（日本生態学会誌）

日本生物地理学会（日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本魚類学会（魚類学雑誌）

日本植物学会（Journal of Plant Research）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（藻類）

日本陸水学会（陸水学雑誌）

日本地質学会（地質学雑誌）

日本第四紀学会（第四紀研究）

日本古生物学会（Paleontological Research）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

### 3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行なった。また、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成12年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、3,683冊である。

#### ■研究報告など出版物の配布

	国 内		国 外	
研究報告 54 号	477 ヶ所	490 冊	452 ヶ所	455 冊
自然史研究 2 巻 16 号	364 ヶ所	376 冊	190 ヶ所	193 冊
収蔵資料目録	242 ヶ所	288 冊	52 ヶ所	53 冊
展示解説（特展解説書とミニガイド）	269 ヶ所	286 冊	0 ヶ所	

いずれも第1回配布のみ。通送便による複数の部数は数えていない。

# 普及教育事業

## I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行なっている。今年度は花と緑と自然の情報センター開設準備作業との兼ね合いから、計画時に毎月定例の行事以外は例年より回数を減らしている。その中で、個別のテーマに即した行事展開と同時に、大阪府下の地域の特色ある自然を総合的に理解する「地域自然誌」シリーズを中心においた、自分の居住地域に対する興味から申し込む参加者などもあり、一定の成果があったと考えている。「地域自然誌」シリーズの実施にあたっては、2001年4月にオープンした花と緑と自然の情報センター内の「大阪の自然誌」展示室のためのデータ収集・標本採集を兼ねて、下見・行事に取り組んだ。一方、今年度から新たな試みとして「ジュニア自然史クラブ」がスタートしている。

観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（\*\*印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ちし、よりきめの細かい普及教育活動を行なうために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事等に導入した（\*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行なうのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されているようである。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。

### ■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらった行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年同様、大きく定員を超過している状態が続いており、同一行事を複数回開催するなどの対策を講じている。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。「レンゲ畑の生き物」\*、\*\* 高槻市、奈良県御所市

4月23日 申込744名（当選242名）参加者145名

「海べのしぜん」\*、\*\* 岬町長崎海岸

5月7日 申込356名（当選356名）参加者269名

「カニ釣り」\*、\*\* 大阪市西中島淀川河川敷

5月21日 申込415名（当選202名）参加者111名

「バッタのオリンピック」枚方市淀川河川敷

10月9日 申込265名（当選151名）雨天中止

「ひつつき虫」\*、豊能町

10月22日 申込140名（当選140名）参加者81名

「化石さがし」泉佐野市

11月28日 申込273名（当選147名）参加者117名

6テーマ5回実施 延べ参加者数723名

### ■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。今年度は主に大阪府下で多数開催した。行事で利用した各観察地は、計画中の「大阪の自然誌展示室」で自然観察ポイントとして新たに紹介していく地域を中心に計画した。

「和泉葛城山」貝塚市

5月28日 申込91名（当選55名）雨天中止

「妙見山」豊能町

6月4日 申込39名（当選39名）参加者36名

「ボンボン山」\*、高槻市

6月11日 申込49名（当選49名）雨天中止

「三草山」能勢町

6月25日 申込49名（当選49名）参加者30名

「泉原」茨木市

7月2日 申込87名（当選55名）参加者33名

「生駒山」東大阪市

9月24日 申込59名（当選59名）参加者41名

「河合寺」河内長野市

10月8日 申込48名（当選48名）参加者35名

「和泉葛城山2」貝塚市

10月29日 申込46名（当選46名）参加者18名

6回実施 延べ参加者数193名

### ■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしばって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下

## 普及教育事業

げた学習機会の提供を可能にしている。今年度は花と緑と自然の情報センター開設準備作業との兼ね合いから、テーマ数を絞って実施した。

「春の渡り鳥の観察会」\* 大阪市長居公園

4月29日 申込110名(当選69名) 参加者57名

「長居公園の秋の渡り鳥の観察会」\*, 大阪市長居公園

10月14日 申込37名(当選37名) 参加者24名

「長居公園の冬鳥の観察会」\*, 大阪市長居公園

2月10日 申込80名(当選80名) 参加者59名  
3回実施 延べ参加者数140名

### ■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行えない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「魚のからだ」\*

2月27日 申込16名(当選16名) 参加者10名  
1回実施 延べ参加者数10名

### ■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察を行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。

4月1日(土)\* 105名

5月6日(土)\* 99名

6月3日(土)\* 93名

7月1日(土)\* 65名

8月5日(土)\* 47名

9月2日(土)\* 61名

10月7日(土)\* 69名

11月4日(土)\* 63名

12月2日(土)\* 78名

1月6日(土)\* 64名

2月3日(土)\* 73名

3月3日(土)\* 55名

12回実施 延べ参加者数872名

### ■科学映画会

昨年度までは月2日(3回)上映していたが、今年度か

らは毎土曜(午後2時)、日曜・祝日(午前11時・午後2時)に実施して、上映回数を大幅に増加した。特別な行事というよりは、入館者サービスの向上として考えている。当館講堂にて上映。上映とあわせて当館学芸員が簡単な解説を行なっている。

4月 新しい地球の科学

一日本列島の誕生— 830名(10日16回)

5月 大きく育て!アオウミガメ

一小笠原の自然に生きる— 1151名(11日18回)

6月 都市の自然 682名(8日12回)

7月 有明海の干潟漁 772名(11日17回)

8月 生きている干潟 643名(8日12回)

9月 トンボがかたる自然環境 812名(9日16回)

10月 私たちのラムサール条約 690名(10日16回)

11月 火山の探求—有珠山の誕生— 390名(5日8回)

12月 琵琶湖—おいたちと生物— 602名(8日13回)

1月 DNAが描くオサマシ新地図 393名(9日14回)

2月 阪神・淡路大震災に学ぶ 588名(5日8回)

3月 メダカの誕生 650名(9日15回)

103日165回実施 延べ観覧者数8203名

### ■自然史講座

当館学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館集会室で毎月第3土曜日の午後3時~4時30分に開催した。近年は参加者が増加し、自然に関する学習機会の需要が高まっているように思える。集会室の定員(50~60名)では充分に対応できないほど多数の参加があることも珍しくない。なお6月は、財団法人大阪市文化財協会から業務研修で自然史博物館に派遣されていた、同協会調査員の趙哲済氏が担当した。

4月8日 コダイアマモの化石の謎 那須孝悌 47名

5月13日 化石と分子系統から見た被子植物の起源  
—研究の現状 岡本素治 45名

6月10日 旧石器人が暮らした古大阪平野 趙哲済 58名

7月8日 泥干潟を滑走する二枚貝 石井久夫 40名

8月12日 干潟の自然 山西良平 46名

9月9日 干潟の魚たち 波戸岡清峰 37名

10月14日 大阪のハムシ 初宿成彦 35名

11月11日 キノコの生え方を考える 佐久間大輔 35名

12月9日	生きている放散虫	川端清司	29名
1月13日	化石から見た種と実のおいたち	塚腰実	33名
2月10日	植物地理学への招待	藤井伸二	48名
3月10日	縄文時代の食べ物と栽培植物	那須孝悌	48名
12回実施 延べ参加者数 501名			

## ■標本同定会

子どもたちが夏休みに採集して作成した標本について、その名前を教える行事。生物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。館外から多数の専門家の協力を得て、毎年8月下旬に実施している。2000年は8月27日（日）に実施した。昨年度に比べて件数で26件減少し、参加者数は8名増加した。

### 同定件数

植物（菌類を含む）	36件
昆虫（クモなど含む）	45件
貝・他の動物	18件
化石	9件
岩石・鉱物	12件
計	121件 253名

### 参加者の地域区分

大阪市内	45件
大阪府（市外）	52件
他府県	24件

### 過去数年の同定件数と参加者数

平成 12（2000）年	121件	253名
11（1999）年	147件	245名
10（1998）年	125件	245名
9（1997）年	100件	177名
8（1996）年	141件	274名
7（1995）年	110件	163名

## ■生涯学習フェスティバル

第9回大阪市生涯学習フェスティバルが大阪市生涯学習フェスティバル実行委員会主催（後援大阪市教育委員会他）により11月14日、15日の両日に大阪市八幡屋公園の大阪市中央体育館で開催された。教育委員会の依頼により、当館は14日に当館の普及活動と友の会をPRするためのパネル展示を行った。15日には「木の実と化石で遊ぼう」

というテーマでワークショップを実施して、多数の参加者を得た。

## ■講演会及びシンポジウム

今年度は、館主催の特別展普及講演会以外にも、大阪市学芸員等共同研究実行委員会などとの共催で多彩な講演会を開催し、多数の市民に聴講いただき、好評をえた。

### 1. 特別展普及講演会

日時：8月10日（日）

会場：自然史博物館 講堂

演題・講師：「干潟のカニが織り成す社会行動の妙」

和田 恵次氏（奈良女子大学理学部教授）

参加者：93名

### 2. 「朝鮮半島と日本列島の自然環境」

（共催：大阪市学芸員等共同研究実行委員会）

日時：9月3日（日）

会場：自然史博物館 講堂

演題・講師：

「韓国の森林と日本の森林」

金 聖徳氏（大韓民国忠南大学校生物学科）

「韓国の第四紀地質」

金 周龍氏（大韓民国地質資源研究所）

「朝鮮半島の初期農耕と自然環境」

後藤 直氏（東京大学文学部） 参加者：135名

### 3. 日本動物学会近畿支部公開講演会

「マンモスが蘇るー 遺伝子操作動物の実態と意味」

（共催：日本動物学会近畿支部）

日時：11月25日（日）

会場：自然史博物館 講堂

演題・講師：

1) 「遺伝子操作入門」

2) 「マンモス復活への夢」

後藤和文氏（マンモス復活協会科学部）

3) 「遺伝子操作動物を用いた受精メカニズムの研究」

岡部 勝氏（大阪大学遺伝情報実験施設）

参加者：60名

### 4. シンポジウム

「人の暮らしがつくった農村の自然 英国そして日本」

（共催：農林水産省森林総合研究所）

里山ブームなど昨今の自然と人間の関わりに関する関心の高まりを受け、英国で歴史学的手法を用いて長期にわたる人と自然の関係を解き明かしてきたオリバー・ラッ



カム氏(ケンブリッジ大学教授)による講演を行った。同氏は農林水産省森林総合研究所の招聘により来日中であり、本シンポジウムは大阪市立自然史博物館と農林水産省森林総合研究所の共催として開催された

日時: 1月21日(日) 午後1時~4時30分

基調講演: オリバー・ラッカム氏

(英国ケンブリッジ大教授)

※講演は同時通訳つき

パネルディスカッション:

オリバー・ラッカム氏,

深町加津枝氏(森林総合研究所・関西支所),

佐久間大輔氏(大阪市立自然史博物館)

小椋 純一氏(京都精華大)

鎌田 磨人氏(徳島大)

会場: 大阪市立自然史博物館 講堂

参加者数 85 名

#### 5. 地球科学講演会(共催: 地学団体研究会大阪支部)

「花粉の科学」

日時: 2000年2月4日(日)

講師: 那須孝悌(当館館長)

会場: 自然史博物館 講堂

講師急病により中止

#### 6. 「朝鮮半島と日本列島の初期農耕」

(共催: 大阪市学芸員等共同研究実行委員会)

日時: 2000年2月18日(日)

会場: 自然史博物館 講堂

演題・講師:

「植生からみた韓国と日本の農耕」

佐久間大輔氏(当館学芸員)

「韓国と日本の初期稲作」

安 承模氏(大韓民国円光大学校)

「韓国における農耕遺跡調査・研究の現況」

李 相吉氏(大韓民国慶南大学校)

「農耕環境の昆虫遺体」

初宿成彦氏(当館学芸員)

「韓国と九州における農耕技術比較研究の課題」

大庭重信氏・寺井 誠氏(財)大阪市文化財協会

参加者: 220 名

けでなく、研究施設・収蔵施設などを含めた館内見学や実習により、博物館と自然史科学に親しむきっかけを作ることを目的としている。冬の小学生向けの「博物館たんけんコース」、夏の中学生向けの「学芸員体験コース」いずれも大阪市内の小中学校全生徒に配付される広報誌「タッチ」に掲載され、幅広い応募がある。今年度からは新たに高校生向けの行事として、中学生向けの「学芸員体験コース」をより高度な内容で取り組む「高校生のための博物館実習」を企画した。収蔵施設などの見学の安全確保、実習の進行などには補助スタッフの協力におうところが大きい。

#### 1. 「博物館たんけんコース」\*

裏方(実験室や収蔵庫など)を中心とする館内見学とスクラッチカードによる展示見学。ふだんは見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近に親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。1月8日、9日の2日間に渡って3回実施した申込総数 104 名

第1回 1月13日(土) 参加者 40 名

第2回 1月14日(日) 参加者 41 名

延べ参加者数 81 名

#### 2. 学芸員体験コース(中学生向け)\*

3日間連続の実習。オリエンテーションののち、学芸員があらかじめ用意した課題(小さな化石・アメンボ・大池の魚の3課題から選択)に基づき、学芸員と補助スタッフの指導のもと長居公園で野外調査を行い、この結果をまとめ、展示として作成した。

自分の目と手で調べた調査を展示として作成、発表することで、自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらうプログラムとしても位置付けている。1998年からこの形式で実施している。

8月23~25日 申込 12 名(当選 12 名) 参加者 10 名

#### 3. 高校生のための博物館実習(高校生向け)\*

2日間連続の実習。基本的に大学から受け入れている博物館実習と同レベルの実習内容として、オリエンテーションの後、各分野(植物化石・昆虫・植物)の標本作製や処理作業などを体験してもらった。

8月17・18日 申込 10 名(当選 10 名) 参加者 8 名

#### ■ドキドキ子ども自然史ウォッチング

社会教育施設の無料解放により、博物館の利用機会の増した小中学生を対象に1995年から実施している。展示だ

#### ■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子

の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないとの指摘を受けた。昨年は試みとして高校生を対象とした行事（「高校生シリーズ」）を実施したが、広報を充分行えなかったなどの多くの課題を残した。

今年度は「高校生シリーズ」の代わりとして、中学生にも対象を拡大した「ジュニア自然史クラブ」を開始した。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

#### ●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集すると同時に、1998年度と1999年度の「ドキドキ子ども自然史ウォッチング学芸員体験コース」の参加者にダイレクトメールを郵送した。

#### ●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。

2001年3月31日現在の部員数は、92名。

#### ●2000年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を、学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。その結果、2000年度は年間18回の行事を企画し、15回実施した。

部員の参加者数は、のべ169名であった。

春の長居植物園で生き物観察

長居植物園・自然史博物館 4月9日 33名

長居公園の春の渡り鳥の観察会の下見

長居植物園 4月23日 6名

春の河合寺 河内長野市河合寺

5月27日（雨天中止）

箕面 箕面市箕面公園 6月10日 9名

磯観察 和歌山市加太海岸 6月18日（雨天中止）

初夏のキノコ 島本町若山神社・水無瀬溪谷

6月24日 1名

サギのコロニーとツバメの集団ねぐらの観察

堺市大津池・小池 7月23日 9名

犬鳴山 泉佐野市犬鳴山 7月30日 10名

自然史博物館で標本実習

自然史博物館 8月2日 29名

シギ・チドリを観察会 南港野鳥園 8月26日 4名

昆虫採集入門講座ジュニア編

自然史博物館 9月23日（雨天中止）

キノコさがしとタカ見の見物

和泉葛城山 10月1日 7名

長居公園の秋の渡り鳥の観察会の下見

長居植物園 10月9日 2名

秋の里山を歩こう

河内長野市千早口 11月5日 9名

地層と化石の観察

泉佐野市滝の池 12月23日 23名

河原で焼き芋

高槻市淀川鶴殿 1月6日 9名

動物園で見る動物の進化

大阪市天王寺区天王寺動物園 2月11日 13名

ミーティング（第1回）

自然史博物館 3月20日 5名

#### ■教員向けの「総合的な学習の時間」研修プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまることなどから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まると考えられる。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画するとともに、プログラムをより実効性ある物とするためにフォーラムを開催し、教員と自然史博物館を結ぶネットワーク（TMネットワーク）を立ち上げた。

セミのぬけがら調べ 東大阪市枚岡公園

9月10日 申し込み6名、参加6名

身近な植物—紅葉の秘密、木の実の秘密— 長居公園

11月25日 申し込み18名、参加15名

水族館等の施設を利用した水生生物の学習

淀川区水道記念館

12月6日 申し込み9名、参加6名

フォーラム 自然史博物館

2000年3月3日 参加31名

#### ■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入した。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよく理解

## 普及教育事業

者である「友の会」に委託し、会員より募集を行なっている。行事実施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっていることが示される。2000年度は、研修を延べ25回開催し、これを受講した人たちは延べ189名に達する。このことから研修制度は当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

以下に補助スタッフ研修について、行事名、研修の開催日、場所、受講人数の順に略記する。なお、各行事の実施日については上述の普及行事の項を参照。

レンゲ畑のいきもの	4月22日	当館	4名
春の渡り鳥の観察会	4月24日	長居公園	4名
海べのしぜん	5月7日	岬町	28名
カニ釣り	4月23日	大阪市内	10名
ボンボン山	6月7日	高槻	6名
セミの幼虫さがし	6月25日	当館	5名
ドキドキ学芸員体験コース	8月8日	当館	3名
ドキドキ学芸員体験コース	8月17日	当館	2名
秋の渡り鳥の観察会	10月10日	長居公園	4名
ひつつき虫	10月21日	当館	5名
ドキドキ博物館探検コース	1月13日	当館	6名
冬鳥の観察会	2月5日	長居公園	7名
魚のからだ	2月25日	当館	2名
植物園案内	4月2日	長居植物園	10名
植物園案内	5月7日	長居植物園	9名
植物園案内	6月4日	長居植物園	7名
植物園案内	7月2日	長居植物園	9名
植物園案内	8月6日	長居植物園	9名
植物園案内	9月3日	長居植物園	7名
植物園案内	10月8日	長居植物園	8名
植物園案内	11月5日	長居植物園	10名

植物園案内	12月3日	長居植物園	8名
植物園案内	1月7日	長居植物園	10名
植物園案内	2月4日	長居植物園	7名
植物園案内	3月4日	長居植物園	9名
ジュニア自然史クラブ	3月21日	当館	9名

### ■インターネットを利用した普及活動

博物館では1997年度からインターネットシステムを導入し、研究活動に利用すると共にホームページなどを利用した市民への情報発信と学習機会の提供を行なっている。2001年4月に開館予定の（仮称）花と緑と自然の情報センターに備え、情報発信機能の増強を行った。これまで、unixサーバー1台ですべてのwebサービスを行っていたが、1月よりLinuxサーバー2台、WindowsNTサーバー2台による分散処理システムに移行した。これと館内処理サーバー2台が連動することにより、従来は不可能だった標本データとの連動による情報提供が可能となる。市民の財産である標本を直接市民の学習に提供できる仕組みとして大きな前進となるだろうと考えている。現在これらのコンテンツは4月27日の開館に向け、準備中である。また、これらのサービスをインターネット上でも展開すべく、通信回線の増強も計画している。

ホームページは1997年7月の開設以来、その内容は飛躍的に拡充され、市民からの関心も増している。開設以来2000年度末までに延べ120,000人を越える閲覧者があった（2000年度だけで延べ約60,000人）。市民からの質問に対する自然史に関する情報提供や標本・資料の公開なども行われている。ホームページを活用した新しい取り組みとしては、当館が環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワークと共同して開発した「環瀬戸内いきものマップ」がある（くわしくは34ページ参照）。1998年度からは電子メールを利用した自然史情報の交換の場としてメーリングリスト[omnh]を開設し2001年3月31日現在で260名の参加者が登録され、様々な自然観察の報告や質問などに活発に利用されている。2000年度には、2600通を越えるメールがやり取りされた。

### ■マスコミへの掲載・出演

当館の特別展や普及事業などがマスコミに取り上げられる機会は多いが、それ以外にも、学芸員が取材に応じたり、直接出演することが、自然史博物館の普及教育事業として大きな役割を果たしている。完全には網羅できていないが、

平成12年度分について掲載する。【 】内は関連する展示会や普及行事。

● 新聞

- 「疑問を解く ケナフ 地球に優しい？」  
朝日新聞, 2000年6月1日
- 「南方系昆虫 泉州に」 毎日新聞, 2000年6月20日
- 「温暖化救う」は早計? ケナフ」  
毎日新聞, 2000年7月13日
- 「特別展「干潟の自然」で講演会」  
朝日新聞, 2000年7月20日【特別展】
- 「干潟の本当の姿知って」  
朝日新聞, 2000年7月20日【特別展】
- 「特別展「干潟の自然」開催中」  
朝日新聞, 2000年7月24日【特別展】
- 「干潟の歴史講座」  
日経新聞, 2000年8月9日【特別展】
- 「国際シンポ「朝鮮半島と日本列島の自然環境」」  
毎日新聞, 2000年8月25日【学芸員等共同研究】
- 「特別展「干潟の自然」」  
毎日新聞, 2000年9月3日【特別展】
- 「セミー今年はやや減少」  
朝日新聞 2000年9月5日夕刊  
【友の会セミーのぬけがらしらべ】
- 「縄文の巨大流木群」 朝日新聞, 2000年9月20日
- 「雑記帳」神戸にヒラズゲンセイ」  
毎日新聞, 2000年9月6日
- 「ハイハマボックス ひっそりと生命」  
朝日新聞, 2000年9月22日
- 「博物館とインターネットを考える」  
中日新聞, 2001年2月25日  
【環瀬戸内地域自然系博物館  
ネットワーク推進協議会（以下環瀬戸）】
- 「博物館とネットの関係を議論」  
岐阜新聞, 2001年2月25日【環瀬戸】
- 「ネット活用を博物館が議論」  
朝日新聞, 2001年2月25日【環瀬戸】
- テレビ（ケーブルテレビを含む）
- 「ドバトとスズメのヒナについて」（和田）,  
朝日放送探偵ナイトスクープ, 2000年6月23日
- 「植物・昆虫標本の作り方」（藤井・初宿）  
関西テレビ痛快エブリディ, 8月18日

「大阪周辺でとれる化石（川端）

大阪セントラルテレビ, 2000年11月1日

【化石さがし】

● ラジオ出演

- 「中原秀一郎のラジオトゥディ,  
朝公園セミーのぬけがらしらべについて」（初宿）  
朝日放送, 2000年9月5日  
【友の会セミーのぬけがらしらべ】

## II. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。

友の会では、博物館主催の行事とは別に、計14回の友の会主催行事を企画し、延べ873名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員との交流が行われている。また、「セミーのぬけがらしらべ」では、都市公園におけるセミーの発生について継続データの収集を行っている。今後行事などをますます充実させていく必要があると考えている。

### ■ 庶務

1. 2000年度の会員数は1952名（1年会員1,799名、半年会員133名、賛助会員20名）。前年度は2,058名（1年会員1,886名、半年会員157名、賛助会員20名）。2000年度賛助会員: (株)新興出版社啓林館、環境学習センター、浦野動物病院、浅葉 清、安部 清子、大宮文彦、小郷 一三、作田 守志郎、志村 研太郎、高井 悦子、高橋 泰章、田村 芙美子、寺島 久雄、豊田 収、萩原 寛、浜田 弓、堀田 満、丸山 精一、山下 良寛、山本章（順不同、敬称略）
2. 6回の評議員会を開き、会の事業・庶務等について審議した。
3. 経営問題検討委員会を3回開き、本会の特定非営利活動法人化についての検討を行なった。その結果、本会をその事業組織とするより包括的な法人「大阪自然史センター」を設立する方向で、2001年中の設立を目指して準備中。

## ■役員

会 長：粉川 昭平

副会長：西川 喜朗・那須 孝悌

評議員：梅原 徹，浦野 信孝，桂 孝次郎，白木 江都子，  
杉浦 真治，田代 貢，鍋島 靖信，花岡 皆子，春沢 圭  
太郎，堀田 満，道盛 正樹，村井 貴史，六車 恭子，山  
下 裕子

会計監査：左木山 祝一，加納 康嗣

## ■事務職員

玄甫 貴子（大阪市教育振興公社嘱託職員）

## ■事業

### 1. 行事

14回の行事を実施し（計画17回，中止3回），延べ  
873名の会員とその家族が参加した。

(1) 総会 1月30日（日） 自然史博物館 223名

(2) 昆虫採集入門講座合宿

5月13日（土）～14日（日）

京都府大江町大江山周辺 38名

(3) コケ植物研究入門講座

6月11日（日）自然史博物館 33名

(4) 友の会合宿「大江山」

8月11日（金）～13日（日）

京都府大江町大江山周辺 58名

(5) 韮公園セミのぬけがらしらべ

9月3日（日）韮公園 124名

(6) 友の会のつどい「真の博物館裏方見学」

11月26日（日）自然史博物館 100名

(7) 月例ハイキング（第3日曜日）

1月16日「二上山」 40名

2月20日「六甲・東お多福山」 雨天中止

3月19日「加太 田倉崎」 雨天中止

4月16日「揖保川河口」 48名

5月21日「茨木市泉原」 53名

6月18日「知内川の後背湿地」 19名

7月16日「六甲・東お多福山」 44名

8月20日「金剛山」 28名

9月17日「妙見山から初谷」 34名

10月15日「秋の十三峠」 31名

12月17日「奈良公園のんびりウォッチング」

雨天中止

（11月は友の会のつどいに振り替えて実施）

### 2. 刊行・製作など

(1) Nature Study 誌46巻1号（通巻548号）～12号  
（通巻559号）を発行。このうち1月号と7月号の表  
紙をカラー印刷とした。

(2) 「鳥の絵はがき」の増刷発行，干潟のオリジナル絵  
はがきの新規発行。

### 3. その他の事業

(1) 昆虫採集入門講座・中級編として以下の事業を計画・  
実施した。

2000年6月25日（日）「大野山の昆虫」

18名

共催：双翅目談話会

2000年10月1日（日）「アカトンボを調べよう」

雨天中止

共催：関西トンボ談話会

(2) 博物館のボランティア推進事業の委託を受け，会員  
から募集した補助スタッフ・リーダーにより，博物館  
行事の運営補助を行い，博物館事業に協力した。

## ■補助スタッフ事業

1995年度より，自然史博物館より委託を受けて，補助  
スタッフ事業を運営している。本事業は多くの会員の協力  
によって運営されており，平成12年度はのべ198名の会  
員に補助スタッフとして協力いただいた。行事の内容など  
の詳細は，「補助スタッフ研修」の項（29～30ページ）を  
参照。

## Ⅲ. 博物館実習生の受入れ

本年度は下記の29名の学生を受け入れた。吉田聡子，  
白川恵美，岸本 裕（京都教育大学），柴田 剛（滋賀県  
立大学），石井祥隆（神戸大学），奥 香代子，上田理恵  
（帯広畜産大学），鈴木敦子，辻本 始，加藤隆行，足立奈  
津子，阪本寛子（大阪市立大学），上久保美里，一橋礼子  
（大阪府立大学），河内一郎，相坂 隆，大久保麻美（名城  
大学），大城紅美子，鈴木ちひろ（京都橘女子大学），上嶋  
雅子，中村麻子（京都府立大学），首藤史朗（神戸大学），  
山中千佳，岡田茅紫乃（大阪学院大学），大上杏子，野村  
知子，要田達也（追手門学院大学），山本葉子（奈良女子  
大学），福原千春（琉球大学）

平成12年度(2000年度)普及行事, 特別展, 特別陳列, 友の会行事一覧表

行事月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
やさしい自然 かんさつ会	23. レンゲ畑	7. 海べのしぜ ん					9. ベッタ (中止) 22. ひつつき虫					
地域自然誌 シリーズ	11. 鶴殿	28. 和泉葛城山 (中止)	4. 妙見山 11. ホンボン山 (中止) 25. 三草山	2. 泉原		24. 生駒山	8. 河合寺 29. 和泉葛城山 2					
テーマ別 自然観察会	29. 春の渡り鳥						14. 秋の渡り鳥			10. 冬鳥		
室内実習										25. 魚のからだ		
植物園案内 (第1土曜)	1	6	3	1	5	2	7	4	2	6	3	3
自然史講座 (第2土曜)	8	13	10	8	12	9	14	11	9	13	10	10
科学映画会	1. 2. 8. 9. 15. 16. 22. 23. 29. 30	3. 4. 5. 6. 7. 13. 14. 20. 21. 27. 28	3. 4. 10. 11. 17. 18. 24. 25	1. 2. 8. 9. 15. 16. 20. 22. 23. 29. 30	5. 6. 12. 13. 19. 20. 26. 27	2. 3. 9. 15. 16. 17. 23. 24. 30	1. 7. 8. 9. 14. 15. 21. 22. 28. 29	3. 4. 5. 11. 12	2. 3. 9. 10. 16. 17. 23. 24	6. 7. 8. 13. 14. 20. 21. 27	3. 4. 10. 11. 12. 17. 18. 24. 25	3. 4. 10. 11. 17. 18. 20. 24. 25. 31
特別行事					17-18. 高校生 のための博物 館実習 23-25. ドキド キ中学生 27. 同定会	3. シンポジウ ム「朝鮮半島 と日本列島の 自然環境 10. 特別展普及 講演会		25. 普及講演会 「よみがえる マンモス」		13-14. ドキド キ小学生 21. シンポジウ ム「人の暮らし がつくった と日本列島の 農村の自然	4. 地球科学講 演会(中止) 18. シンポジウ ム「朝鮮半島 と日本列島の 初期農耕」	
ジュニア自 然史クラブ	9. 長居植物園 23. 長居の鳥	27. 河合寺 (中止)	10. 箕面 18. 磯(中止) 24. 水無瀬溪谷	23. 大津池・小 池 26. 大鳴山	2. 自然史博物 館 26. 南港野鳥園	23. 昆虫採集 (中止)	1. 貝塚市 9. 長居の鳥	5. 河内長野市 千早口	23. 化石と地層	6. 高槻市鶴殿 11. 園	天王寺動物 20. 自然史博物 館	
総合的な学 習教員研修						9. セミの抜け 殻		25. 身近な植物	6. 水道記念館			
展 示	3/1 ← 特別陳列 → 5/7	20. ← 特別展「干潟の自然」 → 24.										
友の会	13-14. 昆虫採集入門 講座(大江山)	11. コケ入門講 座中級編「大 野山の昆虫」	11-13. 合宿 (大江山)			3. セミぬけが ら	1. 昆虫採集入 門講座中級編 「アカトシボ を調べよう」 (中止)	26. 秋のつどい		28. 友の会総会		
月例ハイク (第3日曜)	16. 揖保川河口	21. 泉原	18. 知内川	16. 東お多福山	20. 金剛山	17. 初谷	15. 十三峠	21. 鶴殿	17. 奈良公園 (中止)	21. 孝子	18. 多田山	18. 河内長野市, 天見



# 環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会事業

文部科学省（旧文部省）の科学系博物館活用ネットワーク推進事業に基づく委託事業として、当館の他、兵庫県立人と自然の博物館・倉敷市立自然史博物館・笠岡市立カブトガニ博物館・島根県立三瓶自然館・徳島県立博物館・高知県立牧野植物園・大阪市立自然史博物館友の会・倉敷市立自然史博物館友の会の7館園2組織が事業に参加し、このほか10館・団体の協力を得て実施した。参加館7組織により8月18日協議会が設立され、協議会会長として那須孝悌当館館長を選出し、当館に事務局を置いた。

当館で実施した主な事業を以下に記す。なお、この事業の詳細については協議会事務局より発行された平成12年度事業報告を参照されたい。

## ● 市民参加による調査を支援

「セミの抜け殻下敷き」を作成・配布し、友の会行事「鞆公園のセミの抜け殻探し」、「教師向け研修会」などを実施した。

## ● 学校園の「総合学習」支援

友の会および学芸員が作成した「自然観察地図」の一部を学校園の校外活動の資料として配付。また教職員向けの研修会やネットワーク化（Teacher-Museum ネットワーク）を推進した。

## ● 中高生の学習支援

「ジュニア自然史クラブ」を設立、中高生を対象とした行事を月1回程度実施した。

### 1. 標本実習

（8月2日：自然史博物館、館の行事として実施）：  
参加者 29 名

### 2. シギ・チドリの観察会

（8月26日：南港野鳥園）：参加者 4 名

### 3. 昆虫採集入門講座

（9月23日：自然史博物館）：雨天中止

### 4. キノコさがしとタカ見の見物

（10月1日：和泉葛城山）：参加者 7 名

### 5. 秋の渡り鳥の観察

（10月9日：長居植物園）：参加者 2 名

### 6. 秋の里山を歩こう

（11月5日：河内長野市千早口）：参加者 9 名

### 7. 地層と化石の観察

（12月23日：泉佐野市）：参加者 23 名

### 8. 河原で焼き芋

（1月6日：高槻市淀川鶴殿）：参加者 9 名

### 9. 動物園で見る動物の進化

（2月11日：天王寺動物園）：参加者 13 名

## ● 絶滅危惧生物に関する情報交換

大阪市立自然史博物館が来年度開催する「レッドデータ生物」展の基礎として、また以下に示すインターネット GIS システムの公開に先立つ重要検討課題として、絶滅危惧生物に関する研究会を2/3、2/17、3/5の計三回行った。

## ● インターネット GIS システム「環瀬戸内いきものマップ」の開発

大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の所蔵標本・文献上の分布情報を元に、インターネットを介して利用でき、地図上に生物の記録を表示するシステムを開発した。インターネットを介して共同で利用できるシステムとして、来年度は倉敷市立自然史博物館・徳島県立博物館のデータベースにも接続する予定である。

## ● シンポジウム「博物館をいたおす ー自然史系博物館の役割と未来ー」の実施

3月11日大阪市立自然史博物館講堂にて今年度事業の総括として開催、85名が参加した。

### 基調講演 1

「環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワークが目指すもの」

大阪市立自然史博物館 館長 那須孝悌氏

### part 1 博物館の普及活動を通じた発信

「埋没木を通して地域の自然史を学ぶ」

島根県立三瓶自然館 福岡 孝氏

「カブトガニについて」

笠岡市立カブトガニ博物館 惣路紀通氏

「里山の自然を学ぶ」

高知県立牧野植物園 鴻上 泰氏

### 基調講演 2

「21世紀の自然史系博物館に求められているもの」

兵庫県立人と自然の博物館 副館長 中瀬 勲氏

### part 2 博物館による情報収集活動と自然保護

「博物館を情報拠点としたレッドリスト作り」

倉敷市立自然史博物館 狩山俊悟氏

「博物館における鳥類の分布情報の収集

ー市民とのネットワークを中心にー」

大阪市立自然史博物館 和田 岳氏

part 3 博物館の情報を取り出しやすくする

「博物館のホームページ徹底活用」

徳島県立博物館 小川 誠氏

「博物館と自然環境情報」

兵庫県立人と自然の博物館 三橋 弘宗氏

大阪市立自然史博物館 佐久間大輔氏

総合討論

## I. 沿革

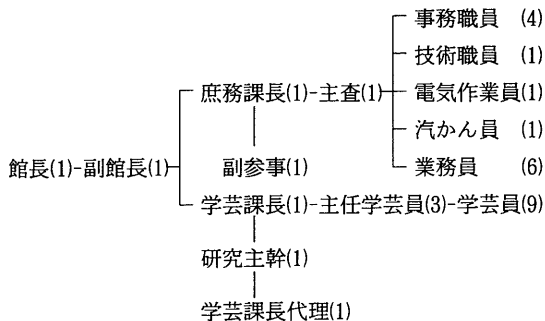
昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置  
 昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上  
 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設  
 昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定  
 昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定  
 昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）  
 昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任（39. 7. 4 退任）  
 昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目（元靱小学校校舎改造）に移転  
 昭和33年1月13日－開館  
 昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申  
 昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）  
 昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40. 7. 31 退任）  
 昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任（58. 6. 1 退任）  
 昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定  
 昭和44年8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織  
 昭和45年4月 ー自然史博物館建設委員会組織  
 昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工  
 昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工  
 昭和48年4月1日－旧館閉館  
 昭和48年7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）  
 昭和49年4月1日－大阪市自然史博物館条例公布  
 昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行  
 昭和49年4月27日－開館  
 昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定  
 昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－

61. 3. 31 退任）

昭和59年6月 ー常設展更新基本計画案策定  
 昭和60年3月 ー常設展更新計画書策定  
 昭和61年3月31日－常設展更新業務完成  
 昭和61年4月1日－新装開館  
 昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任（兼務－2. 3. 31 定年退職）  
 昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－2. 3. 31 退任）  
 平成2年4月1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3. 3. 31 退任）  
 平成2年度 ー文化施設整備構想調査  
 平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5. 3. 31 退任）  
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4. 3. 31 定年退職）  
 平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業  
 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査  
 平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7. 3. 31 退任）  
 平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（9. 3. 31 定年退職）  
 平成7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置  
 平成8年度 ー展示更新基本設計及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討  
 平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10. 3. 31 退任）  
 平成9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計  
 平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任  
 平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築工事着工  
 平成13年3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工

## Ⅱ. 組 織

### ■職 員 数（平成13年 3 月31日現在）計33名



### ■職員名簿（平成13年 3 月31日現在）

職 種	氏 名	職 種	氏 名
館 長	那須 孝悌	学 芸 課 長	岡本 素治
副 館 長	嵯峨山淳二	研 究 主 幹	樽野 博幸
庶 務 課 長	小林 昌昭	学芸課長代理	山西 良平
庶務課副参事兼主査	村上 達之	主任学芸員	石井 久夫
庶務課主査	木村 玲子	"	金沢 至
事 務 職 員	和田 健治	"	川端 清司
"	清水久美子	学芸員(植物)	藤井 伸二
"	中野 剛志	学芸員(動物)	波戸岡清峰
"	西田 良司	学芸員(地史)	塚腰 実
技 術 職 員	谷 勝文	学芸員(昆虫)	初宿 成彦
汽 かん 員	吉田 義昭	学芸員(動物)	和田 岳
電気作業員	平岡徳治郎	学芸員(植物)	佐久間大輔
業 務 員	高橋 明子	学芸員(四紀)	石井 陽子
"	大西 妙子	学芸員(四紀)	中条 武司
"	古岡 武	学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
"	泉澤 英男		
"	田端 健二		
"	木嶋 正弘		

### ■人事異動

平成12年 4 月 1 日 吉田 義昭 婦人会館より転入  
 4 月14日 村上美恵子 給与課へ転出  
 木村 玲子 科学館より転入  
 4 月27日 城山 裕司 整備課へ転出  
 中野 剛志 新規採用  
 平成13年 3 月31日 那須 孝悌 定年退職  
 3 月31日 小林 昌昭 定年退職  
 3 月31日 高橋 明子 定年退職

3 月31日 大西 妙子 定年退職

3 月31日 平岡徳治郎 定年退職

## Ⅲ. 庶務日誌

### ■平成12年度 博物館関係者来訪

12. 6. 20 北九州市立博物館職員 1 名 博物館管理運営について視察
10. 6 群馬県立自然史博物館学校教育との連携等について視察
12. 2 宮崎県総合博物館館長他 1 名 組織・予算等について視察
12. 7 高知県立歴史民俗資料館職員 2 名 学校との連携について視察
13. 12. 1 宮崎文化振興協会博物館職員 1 名 管理運営等について視察
2. 20 群馬県教育委員会事務局職員 4 名 常設展示について視察
2. 23 石川県教育委員会事務局職員 2 名 標本の整理保管について視察
3. 9 茨城県自然博物館職員 3 名 普及事業他について視察
3. 16 山口県立博物館職員 1 名 建築及び運営他について視察
3. 19 鹿児島県立博物館職員 3 名 収蔵庫・燻蒸施設等について視察
3. 28 苫小牧市博物館職員 1 名 特別展示事業他について視察

# IV. 決 算

■平成10年度～平成12年度（人件費を除く）

（単位 千円）

		事 項	平成10年度 決 算	平成11年度 決 算	平成12年度 決 算
歳 入	第 1 部	入 館 料 ほ か	14,114	12,432	14,438
		雑収（展示解説等売却代）	1,549	1,760	1,815
		国 庫 補 助 金	0	0	0
	第 1 部 計		15,663	14,192	16,253
歳 出	第 1 部	常 設 展 覧 事 業	5,148	2,594	3,599
		特 別 展 覧 事 業	5,581	5,911	6,347
		調 査 研 究 事 業	8,916	8,707	7,689
		資 料 収 集 保 管 事 業	4,768	5,295	5,280
		普 及 教 育 事 業	4,032	2,822	3,753
		充 実 活 性 化 事 業	3,447	3,051	3,206
		一 般 維 持 管 理 費	73,486	66,383	77,898
		小 計	105,378	94,763	107,772
	第 2 部	館 蔵 品 整 備 事 業	15,860	15,860	12,000
		研 究 機 器 整 備 事 業	2,680	0	9,716
		施 設 整 備 事 業 等	12,658	22,355	2,429
		自然史博物館増設「花と緑と 自然の情報センター」建設	818,956	984,397	2,363,297
		小 計	850,154	1,022,612	2,387,442
	第 1 部 ・ 第 2 部 合 計		955,532	1,117,375	2,495,214

V. 入館者数（平成12年度）

区分 月	有 料				無 料							計	開館 日数
	個 人		団 体		団 体					個 人			
	大 人	高・大	大 人	高・大	中学生	小学生	幼・保 育園等	養護学 校・他	団 体 引率者	中学生 以 下	優待・招 待・その他		
(12) 4	5,316	419	0	0	31	5,885	327	66	372	6,294	2,828	21,538	26
5	7,557	429	12	120	291	13,668	1,359	141	1,030	5,877	2,976	33,460	25
6	3,236	290	131	117	394	203	1,150	95	363	1,986	1,603	9,568	25
7	2,482	924	84	620	12	43	458	18	71	3,051	1,058	8,821	26
8	4,002	2,407	152	90	43	0	61	4	16	5,567	1,640	13,982	27
9	2,257	227	71	140	213	629	70	28	50	3,363	1,692	8,740	26
10	2,248	135	107	154	106	8,179	941	181	706	2,687	1,319	16,763	25
11	2,322	155	72	0	980	972	667	134	180	3,530	1,309	10,321	25
12	1,034	258	5	507	165	53	39	4	21	1,455	738	4,279	21
(13) 1	1,599	128	1	0	0	0	197	14	25	1,686	983	4,633	22
2	2,404	86	3	38	43	226	98	4	32	2,542	1,357	6,833	23
3	2,552	126	16	0	66	523	683	13	133	4,163	1,657	9,932	27
計	37,009	5,584	654	1,786	2,344	30,381	6,050	702	2,999	42,201	19,160	148,870	298

■団体観覧内訳（平成12年度）

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	77	4,060	29	1,990	106	6,050
小 学 校	109	10,225	218	20,156	327	30,381
中 学 校	7	462	20	1,882	27	2,344
養 護 学 校・他	27	497	20	205	47	702
団 体 引 率 者		1,351		1,648		2,999
高 校 生	5	259	9	1,111	14	1,370
大 学 生	2	103	4	313	6	416
一 般（有料引率者含）		262		392		654
計	227	17,219	300	27,697	527	44,916



■特別展入館者数

I (平成5年度～6年度)

種別 年度	個 人			団 体			無 料			合計	開催期間	日数	タ イ ト ル
	大人	高・大	小人	大人	高・大	小人	優待・招待	幼・保等	土日祝小中生				
5	15,991	5,529	2,585	346	1,426	5,673	3,412	11,815	—	46,777	8. 7～10. 11	55	5億年の歴史 —近畿地方のおいたちを さぐる—
6	8,355	3,802	1,280	252	393	4,237	2,296	588	5,911	27,114	8. 6～10. 10	55	琵琶湖 —おいたちと生物—

II (平成7年度～12年度)

種別 年度	個 人				団 体			合計	開催期間	日数	タ イ ト ル
	大 人	高・大	優待・他無料	中学生以下無料	大 人	高・大	中学生以下他無料				
7	8,404	3,782	2,799	10,775	99	568	2,945	29,372	8. 5～10. 8	55	ゾウのきた道 —日本のゾウ化石—
8	12,343	3,210	3,795	12,951	216	192	2,499	35,206	8. 3～10. 6	56	昆虫の化石 —虫の4億年と人類—
9	7,690	3,140	3,057	8,043	18	293	1,163	23,404	8. 2～ 9. 28	50	海底の動物 —ベントスの世界—
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8. 1～10. 11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8. 7～10. 11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7. 20～ 9. 24	58	干潟の自然

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成12年度 25件

年月日	団 体 名	人数
12・6・2	ヨシ原研究会	10
7・2	昆虫情報処理研究会	15
7・8	野尻湖花粉グループ	10
9・9	レッドデータブック近畿研究会	10
9・16	近畿多毛類研究会	12
10・14	レピドプテリスツセミナー	13
10・15	関西トンボ談話会	35
10・22	大阪石友会	15
10・29	ハネカクシ談話会	15
11・3	ヨシ原研究会	10
11・4	レッドデータブック近畿研究会	15
11・5	関西トンボ談話会	15
11・18～19	日本トンボ学会総会	15

年月日	団 体 名	人数
12・9	昆虫情報処理研究会	10
12・16	レッドデータブック近畿研究会	15
12・17	近畿植物同好会	10
13・1・13	近畿植物同好会	20
1・21	近畿地学会	20
2・3	レッドデータブック近畿研究会	15
2・4	近畿植物同好会	20
2・4	日本花粉学会	10
2・17	レッドデータブック近畿研究会	15
3・11	直翅類学会	15
3・18	アサギマダラを調べる会	15
3・24	ヨシ原研究会	10

■集会室 平成12年度 26件

年月日	団 体 名	人数
12・4・2	日本甲虫学会	40
4・29	野尻湖友の会	30
5・13	関西トンボ談話会	40
5・20	種子植物談話会	20
5・21	日本鱗翅学会近畿支部例会	40
6・14	松原市教育研究会	10
7・23	野鳥の会大阪支部	27
9・15	低湿地研究会	25
9・23	日本甲虫学会	40
11・18~19	日本トンボ学会総会	40
11・23	双翅目談話会	30
11・25	日本動物学会近畿支部	25
12・3	関西トンボ談話会	40
12・10	日本甲虫学会	50
12・16	種子植物談話会	20
12・24	野尻湖植物グループ	10
13・1・8	朝鮮半島学術調査研究会	20
1・11	朝鮮半島学術調査研究会	20
1・21	大阪鳥類研究グループ	15
2・4	関西トンボ談話会	30
2・12	大阪湾海岸生物研究会	30
2・24~25	野尻湖植物グループ	10
3・4	近畿植物同好会	60
3・18	双翅目談話会	30
3・20	関西トンボ談話会	30
3・25	日本甲虫学会	40

■実習室 平成12年度 16件

年月日	団 体 名	人数
12・5・13	野尻湖植物グループ	6
6・25	野尻湖ヴィーナスグループ	16
8・11~13	野尻湖花粉グループ	20
9・15	野尻湖植物グループ	10
10・15	野尻湖植物グループ	5
10・22	大阪鳥類研究グループ	20
11・23	野尻湖ヴィーナスグループ	16
12・3	大阪自然環境保全協会	40
12・17	野尻湖花粉グループ	20
12・23~25	野尻湖花粉グループ	20
13・1・6~8	野尻湖昆虫グループ	5
1・21	野尻湖友の会	30
2・4	石友会	20
2・12	阪神わかやま野尻湖友の会	20
2・18	関西ネイチャークラブ	25
3・18	大阪鳥類研究グループ	20

■講堂 平成12年度 11件

年月日	団 体 名	人数
12・5・12	自然環境保全協会	200
6・2	自然環境保全協会	200
6・17	大阪教育福祉専門学校	120
6・27	いちょう大学	200
7・7	自然環境保全協会	200
8・4	自然環境保全協会	200
9・1	自然環境保全協会	200
10・6	自然環境保全協会	200
11・19	日本トンボ学会総会	80
11・23	大阪府高等学校生物教育研究会	60
11・25	動物学会講演会	100

# VII. 施 設

- 所 在 地 大阪市東住吉区長居公園1番23号
- 敷地面積 6,743.68㎡
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構 造 鉄筋コンクリート造, 一部屋根鉄骨造  
地下1階, 地上3階

■ 主要各室面積・天井の高さ  
(展示用施設) 計 2,427.48㎡  
(天井の高さ)

オリエンテーション・ホール	550.35㎡	11.00m
第1展示室	360.55㎡	3.30m
第2展示室	486.64㎡	7.20m
第3展示室	403.10㎡	4.70m
第4展示室	100.00㎡	4.20m
特別展示室	260.55㎡	4.20m
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m

(研究用施設)	計	1,802.82㎡
館長研究室・暗室	各	18.27㎡ 2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室	各	47.56㎡ 2.40m
第四紀・外来研究室	各	36.54㎡ 2.40m
生物実験室		49.20㎡ 2.40m
化学分析室・くんじょう室	各	18.27㎡ 2.40m
電子顕微鏡室		37.43㎡ 2.70m
動物標本製作室		37.71㎡ 2.40m
昆虫・植物標本製作室	各	36.54㎡ 2.40m
化石処理室		47.56㎡ 2.40m
石工室		22.21㎡ 2.70m
展示品製作室		28.05㎡ 2.70m
第1収蔵庫		207.09㎡ 3.00m
第2収蔵庫		310.08㎡ 3.00m
第3収蔵庫		207.09㎡ 3.00m
第4収蔵庫		310.08㎡ 3.00m
書 庫		100.30㎡ 7.40m
編集記録室		36.54㎡ 2.40m

(普及教育用施設)	計	604.27㎡
講堂(映写室・控室含む)		319.09㎡ 2.60m (平均)
普及センター		93.30㎡ 2.70m
集会室		95.12㎡ 2.70m
実習室		96.76㎡ 2.70m
(管理用施設)	計	907.49㎡
館長室		36.54㎡ 2.70m
副館長室・顧問室	各	18.27㎡ 2.70m
事務室		83.34㎡ 2.70m

応接室	29.54㎡	2.70m
宿直室	16.85㎡	2.55m
守衛室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電機室	89.92㎡	5.85m
自家発電気室	49.16㎡	5.85m
中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各	16.80㎡
荷物室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
オリエンテーションホール エレベーター	7.00㎡	
倉 庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階 段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■ 階数別面積	
地階……………855.07㎡	3階……………550.95㎡
1階……………3,178.35㎡	屋階……………76.93㎡
2階……………2,404.71㎡	

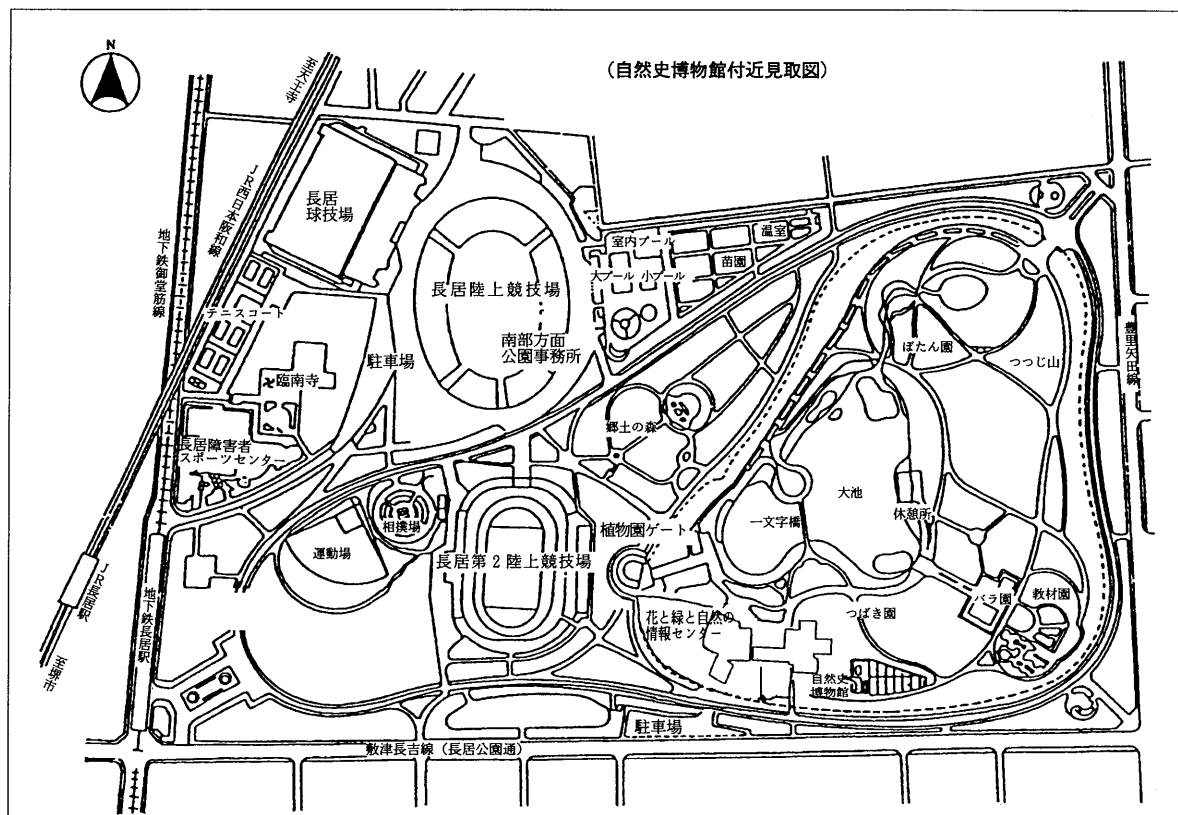
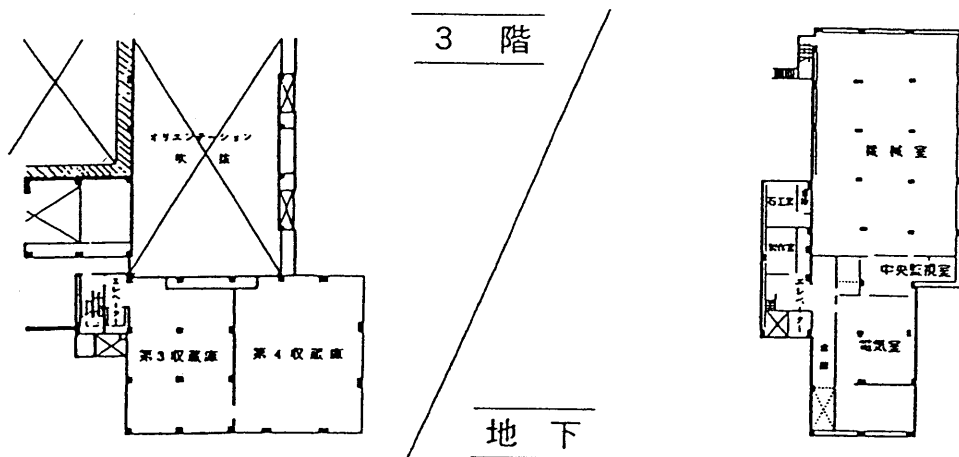
■ 各室定員	
講 堂……………266人	集会室……………48人
会議室……………22人	実習室……………31人
展示室(1階) 415人	展示室(2階) 400人
地 階……………3人	

■ 工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(㈱竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費, 移転費, 公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(㈱日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(㈱乃村工芸社)	2,500万円

- ・起 債 3億8,762万円 (47. 8. 25付交付決定)





## ○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49.4.1 条例39

最近改正 平7.3.16 条例40

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

### 大阪市立自然史博物館条例

#### （設 置）

**第1条** 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

#### （目 的）

**第2条** 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

#### （事 業）

**第3条** 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他必要な事業

#### （観覧料）

**第4条** 博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 観覧料は、1人1回につき、次の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3 特別の展示をしたときの観覧料は、教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

**第5条** 自然史に関する科学についての講演会、講習会その他に関し、博物館の講堂を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項に規定する使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき17,000円以内で教育委員会の定める使用料を前納しなければならない。

3 使用者が附属設備を使用しようとするときは、教育委員会が定める使用料を前納しなければならない。

（観覧料等の減免）

**第6条** 教育委員会が公益上その他必要と認めるときは、観覧料又は使用料を減免することがある。

（観覧料等の還付）

**第7条** 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

（職 員）

**第8条** 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

（施行の細目）

**第9条** この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則（昭49.4.2 施行、告示120）

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則（昭51.4.1 条例61）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭55.11.27 条例48）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭56.4.1 条例53）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭61.4.1 条例50）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平4.4.1 条例58）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平7.3.16 条例40）

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

## ○ 大阪市立自然史博物館規則

制 定 昭49. 4. 26 (教) 規則12

最近改正 平7. 4. 1 (教) 規則18

大阪市立自然科学博物館規則(昭和32年大阪市教育委員会規則第16号)を次のように改正する。

### 大阪市立自然史博物館規則

#### (開館時間)

**第1条** 自然史博物館(以下「博物館」という)の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

#### (休館日)

**第2条** 博物館の休館日は次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)にあたる場合は、その翌日
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで
- (3) 館内整理日(毎月の末日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日にあたる場合は除く。)

#### (入館の制限)

**第3条** 次の各号の1に該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

- (1) 伝染性の病気にかかっている疑いのある者
- (2) 他人に迷惑となる行為をする者
- (3) 資料又は施設を損傷するおそれがある者
- (4) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (5) 管理上必要な指示に従わない者
- (6) その他支障があると認める者

#### (観 覧)

**第4条** 博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

#### (観覧料)

**第5条** 大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市区例第39号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区 分	観覧料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2 条例第4条第3項の規定による観覧料は、1人1回につき、500円以内でその都度教育長が定める。

#### (使用の申込み)

**第6条** 条例第5条第1項の規定によって、講堂の使用許可を受けようとする者は、所定の様式により、申し込まなければならない。

#### (使用の制限)

**第7条** 次の各号の1に該当するときは、講堂の使用許可をせず、又は許可を取り消し、若しくは使用を停止することがある。

- (1) 公安又は風俗を乱すおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他不適当と認めるとき

#### (使用料)

**第8条** 条例第5条第2項及び同条第3項に規定する使用料は、別表のとおりとする。

#### (観覧料等の減免及び還付)

**第9条** 観覧料又は使用料の減免及び還付は、教育長が行う。

#### (資料等の利用)

**第10条** 資料及び施設の利用については、教育長が定める。

#### (損害賠償)

**第11条** 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを原状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

#### (資料等の寄贈及び寄託)

**第12条** 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

#### (寄託資料等の取扱い)

**第13条** 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

#### (寄託資料等の免責)

**第14条** 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

#### (施行の細目)

**第15条** この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

## 附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

## 附 則〔昭51.4.1（教）規則15〕

この規則は、公布の日から施行する。

## 附 則〔昭56.4.1（教）規則17〕

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

## 附 則〔昭61.4.1（教）規則10〕

この規則は、公布の日から施行する。

## 附 則〔平元.4.1（教）規則9〕

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

## 附 則〔平 4.4.1（教）規則24〕

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

## 附 則〔平 5.4.1（教）規則3〕

この規則は、公布の日から施行する。

## 附 則〔平 7.4.1（教）規則18〕

この規則は、平成7年5月1日から施行する。

## 別表

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
講 堂		7,000円	10,000円	17,000円
附 属 設 備	冷 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡 声 装 置	1式 午前・午後各1回につき 1,800円		
	マ イ ク	1本 午前・午後各1回につき 500円		
	ワイヤレスマイク	1本 午前・午後各1回につき 1,100円		
	テープレコーダー	1台 午前・午後各1回につき 900円		
	スライド映写機 （スクリーン付）	1台 午前・午後各1回につき 1,300円		
備	16 ミリ 映 写 機 （スクリーン付）	1台 午前・午後各1回につき 4,200円		
	ビ デ オ 装 置	1式 午前・午後各1回につき 2,200円		

## 備 考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。



# ○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27

最近改正 平11. 4. 1

**第1条** この要綱は、大阪市立自然史博物館条例第6条及び大阪市立自然史博物館規則第9条の規定による観覧料等の減免について定めることを目的とする。

**第2条** 自然史博物館に入場する者が、長居植物園の入場券を呈示したときは、自然史博物館の観覧料から長居植物園の入園料相当額を減額する。

**第3条** 博物館の入場者が30人以上の団体であるときは次の各号に定める割合の観覧料を減額する。

- (1) 入場者が30人以上50人未満の団体 観覧料の1割
- (2) 入場者が50人以上100人未満の団体 観覧料の2割
- (3) 入場者が100人以上の団体 観覧料の3割

**第4条** 保育所、幼稚園、小学校、中学校、盲学校、聾学校又は養護学校の保母又は教職員が、学校行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときは、当該保母又は教職員の観覧料を免除する。

2 前項の学校長又は施設の長は別紙様式1による大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書を観覧する日までに自然史博物館長へ提出しなければならない。

**第5条** 生活保護法（昭和25年法律第144号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）、知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）、精神保健福祉法及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）、又は老人福祉法（昭和38年法律第133号）に規定する社会福祉施設の職員が、当該施設の入所者（当該施設に収容された者も含む）を引率して博物館に入場しようとするときは、職員、入所者及び介護者の観覧料を免除する。

2 前項の施設の長は別紙様式1による大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書を観覧する日までに自然史博物館長へ提出しなければならない。

3 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、知的障害者（児）認定カード、療育手帳、被爆者健康手帳及び戦傷者手帳等の所持者及び介護を必要とする者が博物館に入場しようとするときは、所持者及び介護者の観覧料を免除する。

**第6条** 大阪市内在住の65歳以上の者でツルマークの健康手帳及び本市発行の敬老優待乗車証を所持している者は、観覧料を免除する。

**第7条** 次の各号の1に該当する要件を満たす場合の団体の使用料を免除する。

- (1) 当館が学術振興又は普及教育に資すると判断して共催する行事
- (2) 当館の事業と関連性が強く、また、学術振興に資すると判断される自然史科学に関する各種の学会並びに研究集会等
- (3) 大阪市立自然史博物館友の会の主催する行事
- (4) 博物館法施行規則第1条に基づく博物館実習

2 前項の団体の長は別紙様式2による大阪市立自然史博物館使用料減免申請書を使用する日までに自然史博物館長へ提出しなければならない。

**第8条** 公益上その他特別の事由があると認めるときは減免する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

様式 1

自然史博物館に団体入館時に入口で渡す(まい)。

自然史博物館 使用欄				
決 算 長		主 査		係 員

障害者・中学生以下の学校団体等引率者用

大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育長 様

申請者 校 園 名  
(団体名)  
校 園 長 名  
所 在 地  
電 話

次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。(印不要)

目 的	
日 時	年 月 日 ( ) 午前・午後 時 分から
引率責任者氏名	
引率者(減免)人数	名
生徒・園児・他人数	名
合計人数	名
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第6条及び同規則第9条による。

様式 2

## 大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会教育長 様

申請者 団体名  
代表者名  
住 所  
電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日 ( 曜日 )	使用時間	午前 時 分～午後 時 分	参加人員	人
使用目的	種 別	数 量			
		午 前	午 後	全 日	
附 属 設 備	講 堂				
	冷 房 設 備				
	暖 房 設 備				
	拡 声 装 置				
	マ イ ク				
	ワイヤレスマイク				
	ス ラ イ ド 映 写 機				
備	1 6 ミ リ 映 写 機				
	ビ デ オ 装 置				

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間

午前…午前9時30分～正午

午後…午後1時～午後4時30分

全日…午前9時30分～午後4時30分

(準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます。)

自然史博物館 使用欄				
決 算 長		主 査		係 員

## 博物館実習生の受入れに関する運用方針

※各年度における実習の日程については、当該年度4月までに、ホームページ上に掲載する。

大阪市立自然史博物館  
制定 平成7年2月1日  
改訂 平成13年3月10日

### 〈目 的〉

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

### 〈受入れの規制〉

2. 受入れの時期は夏期（7月後半～8月末）または秋期（10月初～11月末）の期間中とし、1人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、1大学については5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。
5. 実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

### 〈受入れの願書〉

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期および希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受け付けない。

### 〈受入れの諾否〉

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中旬に諾否を回答する。

### 〈その他〉

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制 定 昭51.12.

改 正 昭54. 7.

最近改正 昭62.12.

(目 的)

1. この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下撮影等という）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

2. 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
3. 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。  
ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

4. 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

5. 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。

- (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
- (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
- (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
- (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
- (5) その他詳細については、当館と打ち合せすること。

(その他)

6. 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	庶務課長	主 査	係 員
年			
月	学芸課長	主任学芸員	学芸員
日			

写真・テレビ撮影等許可願

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長様

所 在 地

会社・団体名

代表者氏名印

(担 当 者: )

(電話番号: )

次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いします。

日	時	平成 年 月 日( ) 時 分～ 時 分
目	的	
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(テレビの場合) 放 映 日 時 番 組 名 タ イ ト ル (写真の場合) 掲 載 誌 名 記事タイトル 著 者 名 発 行 者 名 発行年月日		

写真・テレビ撮影等許可願

平成 年 月 日

様

大阪市立自然史博物館  
館 長

平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影等許可願」について次のとおり許可します。

日	時	平成 年 月 日( ) 時 分～ 時 分
目	的	
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(許可条件) (1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。 (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。 (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示することとともに、当館の利用案内をすること。 (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。 (5) その他詳細については、当館と打ち合せすること。		

## 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館  
制定 平成12年4月1日

### 第1条（目 的）

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

### 第2条（定 義）

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

#### (1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

#### (2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

##### ・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、または学会で当該分野における研究実績が認められる者。

##### ・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行なおうとする者。

##### ・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

### 第3条（期 間）

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

#### (1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

#### (2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

### 第4条（手続き）

#### (1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用し

ようとする標本または設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

#### (2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長または指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に所属しない者については、直接の申請ができることとする（様式3）。

申込み期限は利用開始の前々月15日とする（外来研究員については前年度2月15日）。

### 第5条（許 諾）

前条の申し込みについての許否は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

### 第6条（経 費）

当館は、外部研究者の施設使用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

### 第7条（報 告）

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

### 第8条（成 果）

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物またはその複写物を館長に提出しなければならない。

### 第9条（変更・中止）

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

### 第10条（資格の取消し）

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

# 庶務

様式 1

## 大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料 一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利用日	平成 年 月 日		
目的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利用者	氏名	所属または住所	電話連絡先
担当学芸員名			

決	館長	副館長	庶務課長	学芸課長	副参事	係員	学芸員
裁							

様式 3

## 大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館館長 様

平成 年 月 日

(本人)

住 所

電 話

氏 名 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式 2

## 大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館館長 様

平成 年 月 日

(所属機関の長または指導教官)

所属機関

所在地

電 話

職 名

氏 名 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究者	所属部局(教室)、職名(学生)、電話連絡先
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	







---

# ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2000

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

---

Issued : March 31, 2002.